

鉄筋の折曲げ

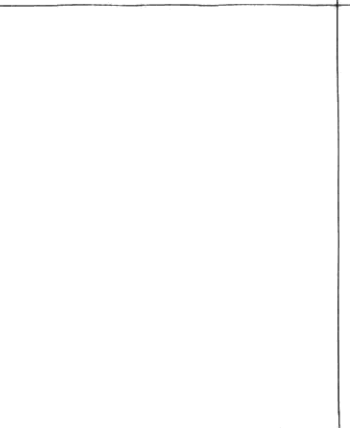
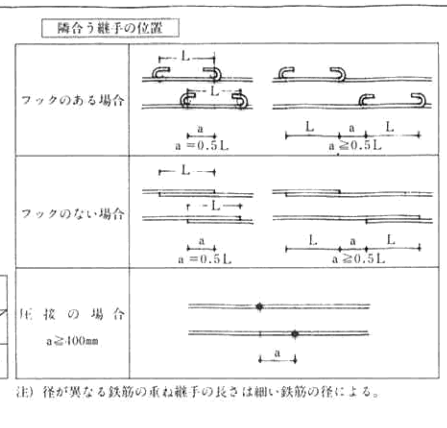
曲げ角度	折曲げ図	SR24	SD30	使用箇所
180°		3d以上	4d以上	柱、はりの主筋及び基礎のベース筋並びに径16mm以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	径13mm以下の鉄筋並びにあばら筋、帯筋、スパイラル筋及び床版筋
90°		3d以上	4d以上	T形及びL形はりのあばら筋
135°		3d以上	4d以上	90°・135° 船止め筋
90°		8d以上	8d以上	

鉄筋の継手及び定着長さ

鉄筋の種類	設計基準強度 (kg/cm ²)	フックの有無	L ₁	L ₂
SR24	210以上	有	35d	35d
SD30	210以上	有	30d	25d
SD35	210以上	無	45d	35d

鉄筋の記号

記号	●	×	▲	○	◇	▽
SR24	○φ	○φ	○φ	○φ	○φ	○φ
SD30	○φ	○φ	○φ	○φ	○φ	○φ
SD35	○φ	○φ	○φ	○φ	○φ	○φ

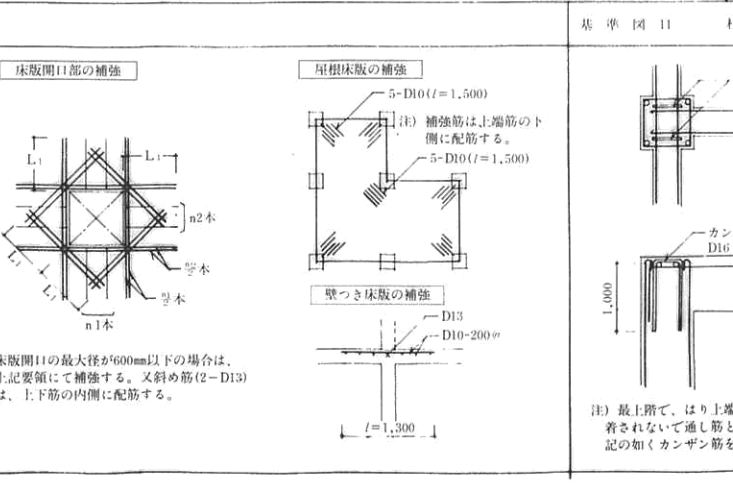
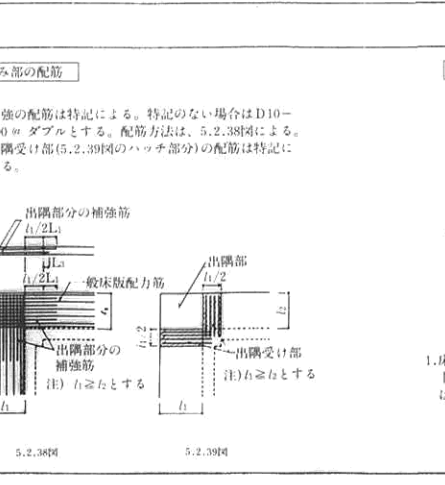
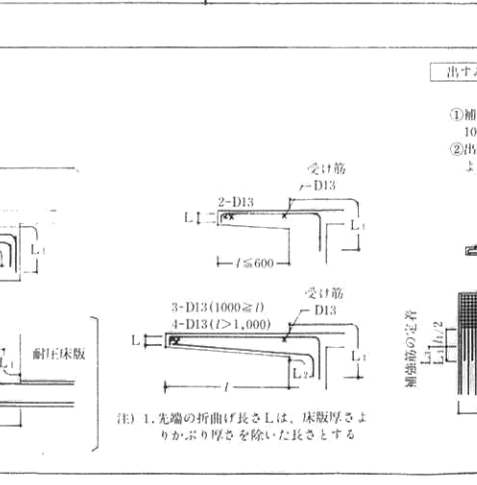
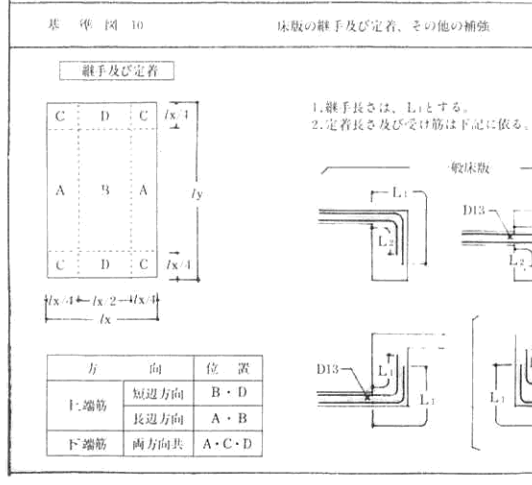
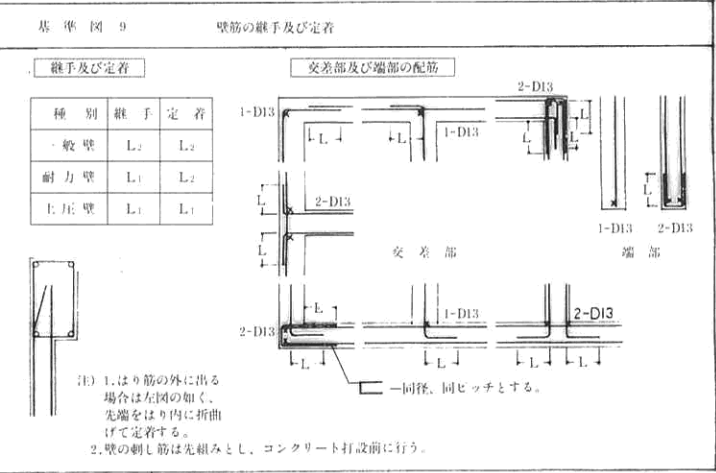
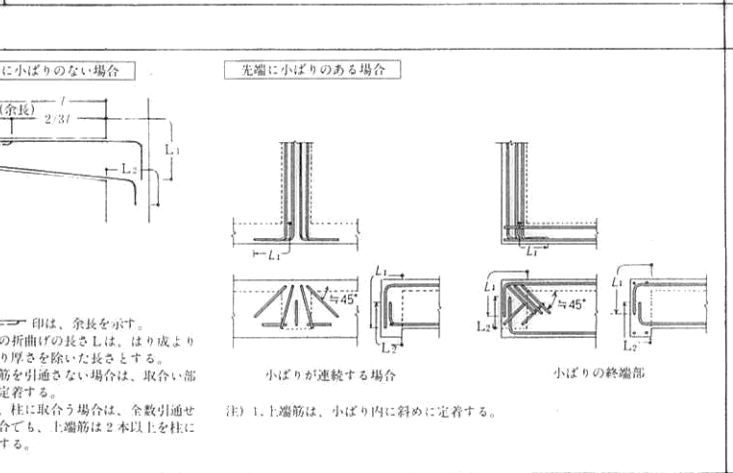
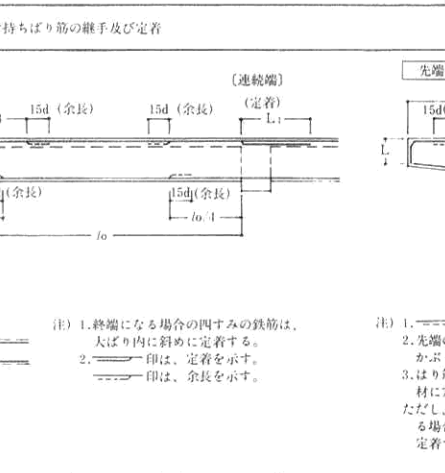
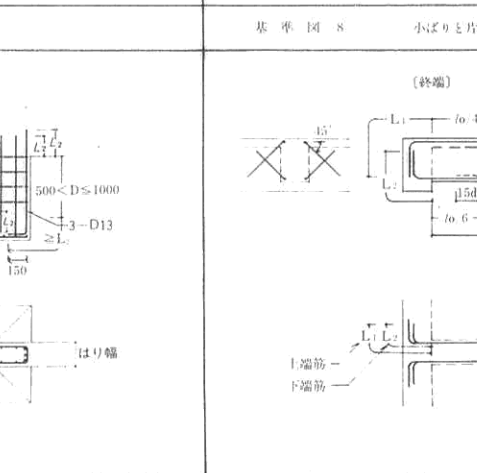
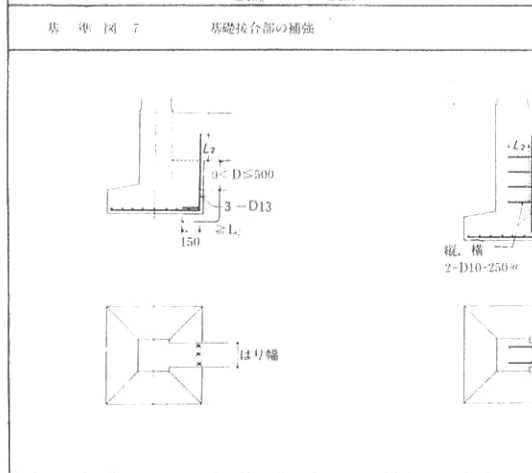
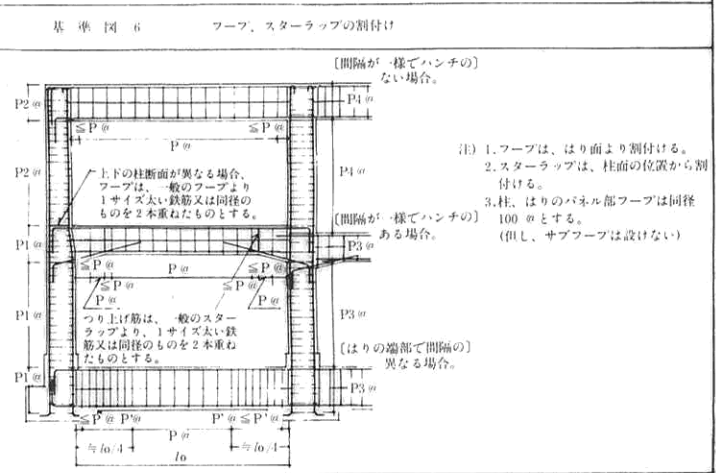
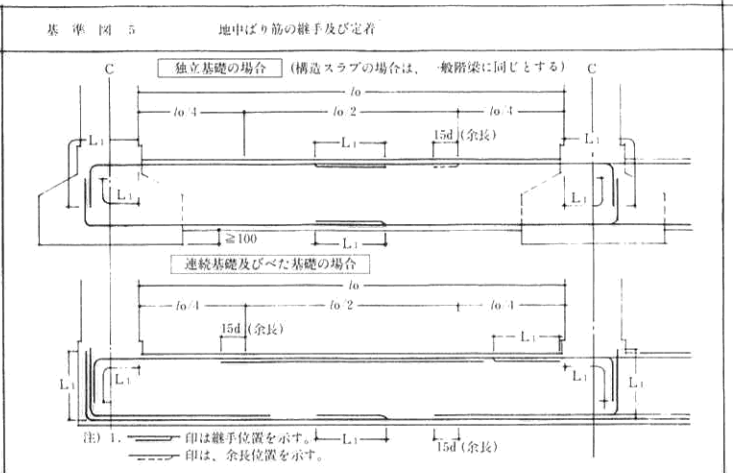
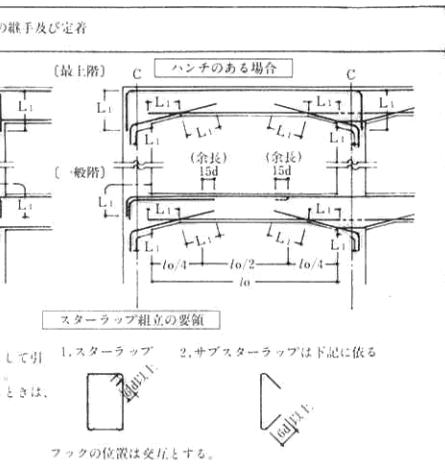
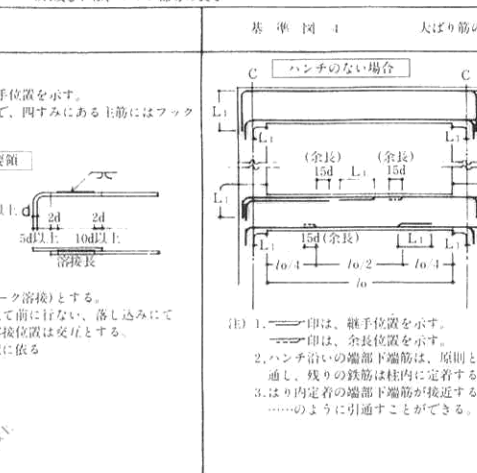
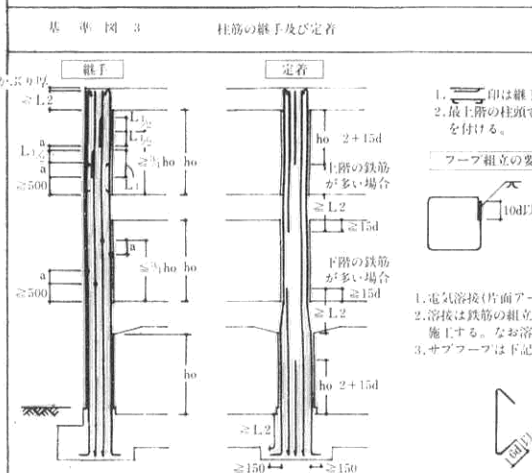


鉄筋の最小かぶり厚さ (mm)

構造部分の種類	かぶり厚	
上に接しない部分	床版、耐力壁 仕上げあり	30
	床版、耐力壁 仕上げなし	30
	柱、はり、耐力壁 仕上げあり	40
	柱、はり、耐力壁 仕上げなし	40
	屋外 仕上げあり	40
	屋外 仕上げなし	50
上に接する部分	柱、はり、床版、壁	50
	基礎、擁壁、耐久床版	70
衝突など高熱を受ける部分	70	

鉄筋相互の間隔

- 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- 25mm
- 丸鋼では径の1.5倍、異形鉄筋では径の1.7倍



溶接基準図

隅肉溶接	記号	F-1	T継手	F-2	重ね継手	F-3	フレア継手	F-4	アングル																																			
	板厚	$6 \leq t \leq 22$		$t \geq 6$				$t \leq 19$																																				
	形状・寸法																																											
		<table border="1"> <tr><td>t</td><td>6</td><td>8</td><td>10</td><td>12</td><td>16</td><td>19</td><td>22</td></tr> <tr><td>S</td><td>6</td><td>8</td><td>10</td><td>13</td><td>16</td><td>18</td><td>20.8t</td></tr> <tr><td>f</td><td>1.5</td><td>1.8</td><td>2</td><td>2.3</td><td>2.5</td><td>2.8</td><td>S/20.8t</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>(0.1S+1)以下</td></tr> </table>		t	6	8	10	12	16	19	22	S	6	8	10	13	16	18	20.8t	f	1.5	1.8	2	2.3	2.5	2.8	S/20.8t								(0.1S+1)以下	$S = 0.4D$ $f = 0.1S + 1$ 以下		<table border="1"> <tr><td>t</td><td>12</td><td>1</td></tr> <tr><td>S</td><td>12</td><td>12</td></tr> </table> $f = 0.1S + 1$ 以下		t	12	1	S	12
t	6	8	10	12	16	19	22																																					
S	6	8	10	13	16	18	20.8t																																					
f	1.5	1.8	2	2.3	2.5	2.8	S/20.8t																																					
							(0.1S+1)以下																																					
t	12	1																																										
S	12	12																																										
突合せ溶接	記号	F-5	レ形T継手(裏ハツリ)	F-6	レ形T継手(裏ハツリ)	F-7	K形T継手(裏ハツリ)	F-8	K形T継手(裏ハツリ)																																			
	板厚	$t \leq 19$		$t \leq 19$		$t > 19$		$t > 19$																																				
	形状・寸法																																											
		$f_1, f_2: 1/4$ 以上10以下		$f_1, f_2: 1/4$ 以上10以下		$f_1, f_2: 1/4$ 以上10以下		$f_1, f_2: 1/4$ 以上10以下																																				
接合	記号	F-9	レ形T継手(裏当)	F-10	レ形T継手(裏当)	F-11	レ形T継手(柱脚用)																																					
	板厚	$t \geq 6$		$t \geq 6$		$t \leq 19$		$t > 19$																																				
	形状・寸法																																											
		<table border="1"> <tr><td>a</td><td>R</td><td>f</td></tr> <tr><td>t ≤ 19</td><td>45° ± 5°</td><td>6 ± 0.5</td></tr> <tr><td>t > 19</td><td>35° ± 5°</td><td>9 ± 0.5</td></tr> </table> $f: 1/4$ 以上10以下		a	R	f	t ≤ 19	45° ± 5°	6 ± 0.5	t > 19	35° ± 5°	9 ± 0.5	$f: 1/4$ 以上10以下		$f: 1/4$ 以上10以下		$f: 1/4$ 以上10以下																											
a	R	f																																										
t ≤ 19	45° ± 5°	6 ± 0.5																																										
t > 19	35° ± 5°	9 ± 0.5																																										
現場溶接	記号	F-12	レ形突合せ継手(裏ハツリ)	F-13	K形突合せ継手(裏ハツリ)	F-14	レ形突合せ継手(裏当)																																					
	板厚	$t \leq 19$		$t > 19$		$t \geq 6$																																						
	形状・寸法																																											
		$f_1, f_2: 1-4$		$f_1, f_2: 1-4$		<table border="1"> <tr><td>a</td><td>R</td><td>f</td></tr> <tr><td>t ≤ 19</td><td>45° ± 5°</td><td>6 ± 0.5</td></tr> <tr><td>t > 19</td><td>35° ± 5°</td><td>9 ± 0.5</td></tr> </table> $f: 1/4$ 以上10以下		a	R	f	t ≤ 19	45° ± 5°	6 ± 0.5	t > 19	35° ± 5°	9 ± 0.5																												
a	R	f																																										
t ≤ 19	45° ± 5°	6 ± 0.5																																										
t > 19	35° ± 5°	9 ± 0.5																																										
共通事項	記号	F-15	H柱用	F-16	角形鋼管柱用	スカーラップ	エンドタブ																																					
	形状・寸法																																											
共通事項	記号	裏当金	母材の厚さが異なる継手	スカーラップ	カバープレート																																							
	形状・寸法																																											

鉄骨一般事項

- 1 鋼材は SS41 とする。
- 2 ボルトは特殊高力ボルト (F10T) とし、摩擦面の処理はプラスト法等による。
- 3 アンカーボルトは SS41 とする。ボルト孔はボルトの径に5 mm を加えた大きさとし、工場にてドリルあけとする。
- 4 ベース下モルタルは無収縮モルタル充填とする。(プレミックスタイプ使用とする。)
- 5 鉄筋の貫通孔は鉄筋の外径に5 mm を加えた大きさとし、穴あけは工場にてドリルあけとする。
- 6 請負業者は施工以前に、鉄骨工作要領書及び施工図を提出し、監督員の承認を得ること。
- 7 鉄骨加工メーカーは、月産500 t以上の能力を有するHグレード工場とし、建設省告示第1103号の規定に基づき、同告示第1号の規定によるものと同等以上の品質を確保しうる能力を有すること。
- 8 溶接部の検査は超音波探傷試験によりおこなう。
注) メーカー自主検査は全箇所とし、第3者検査は (100箇所) とする。
- 9 工場塗装の下地処理としてB種ケレンを行い、サビ止めは K-5624 2回塗りとする。
- 10 テフロン加工部は、ビラーフロゴールドベアリング (溶接用) 使用とするか、又は同等品とする。

ボルト記号ピッチ

記号	H.T.B M22	H.T.B M20	H.T.B M16	中ボルト M12
はしあき	45	45	40	30
へりあき	35	30	30	25
最小ピッチ	55	50	40	30
標準ピッチ	75	75	60	60

注) 特記なきボルトピッチは標準ピッチとする。

プレストレストコンクリート特記仕様

1) 総則

- 一般事項 本工事は設計者並びに当特記仕様による他特記なき事項は日本建築学会「建築工事標準仕様書 (JASS) 並びに同学会「プレストレストコンクリート設計規程」 「鉄筋コンクリート構造設計規程」の各規定による。又これに示されていない事項については係員の指示に従う。
- 構造方式及び材料の種類 本工事の構造方式は現場打一体式プレストレストコンクリート造(ボルトジョイントによるプレストレスト)と鉄筋コンクリートの組合せ構造とする。又導入工法はBBRV工法とする。
- 施工業者 PC工事は当工事に精通し充分な経験と技術を有するPC業者とする。又PC業者は、緊張新設者となる施工計画書を提出し、係員の承認を受けなければならない。
指定PC業者 1. ドービー建設工業(株) 2. ビーエスコンクリート(株) 3. オリエンタルコンクリート(株)

2) 使用材料

- 鉄筋 標準特記仕様とする。
- PC鋼鉄 PC鋼鉄JIS G3536の規格品とする。下記に当工事使用材料の規格強度を示す。

規格	引張強度 (N/mm ²)	降伏強度 (N/mm ²)	許容引張荷重	
			定着時 (t)	導入時 (t)
7mm	5.95	5.20	4.16	4.42

但し作業際硬直は中央設計スレスレ及び有効率0.85より緊張新設量を作成し係員の承認の元決定する。

- セメント セメントJIS R5210に規定のポルトランドセメントを用いるが早強ポルトランドセメントを使用しても良い。又コンクリート中に表面活性剤等の添加剤を用いる時はその使用、品質等について係員の指示を受けることとする。
- 骨材 骨材はJASS 5-3-3及び5-19-2に準ずるものを用いる
- 材料試験 コンクリートの材料及び鉄筋、PC鋼鉄の試験方法はJASS 5-12-3にてコンクリートの試験はJASS 5-12-4による。型枠は硬練りコンクリートの振動打込に耐える十分な強度を有し劣化の少ないものとする。

3) 型枠

4) 配筋

- 鉄筋 鉄筋は正確な配置をしコンクリート打込みの際に移動しないよう強度に組立金具(作)を付ける。
- PC鋼鉄 PC鋼鉄は下記のとおり配筋を正確に設置し強度に取付ける。
1) 梁端部の定着具はコンクリート打込み前に内面に正確に取付ける。
2) シースはコンクリート打込み前に移動しないよう固定する。
3) PC鋼鉄を梁上に設置して腐食や焼傷させないよう注意する。
4) PC鋼鉄に保護層を使用しない。

5) コンクリート

- コンクリートの種類 コンクリートはJASS 5-2によるプレストレストコンクリートとする。
- 配合及び強度 コンクリートの配合は所定の品質及び作業に適するワーカビリティをもつ範囲内で単位水量をできるだけ少なくするよう試験検討し、その試験結果を添えて配合表を提出し事前に承認を得ることとする。なおコンクリートはJISの指定工場製品とする。
- 打込み コンクリートの打込みは下記のとおり注意して行う。
1) PC鋼鉄、鉄筋及び定着具が移動しないよう注意する。
2) シース内にセメントペーストを絶体に入れない。
3) シースに直接バイレターを接触させない。
4) 定着具は特に注意し、シース内に直接バイレター等を入れない。
5) レイ・ミックスコンクリート工場より搬入されたコンクリートを30分以上放置したものは30分以内でも硬化を始めたものは使用しない。

6) 緊張

緊張作業は事前にキリレーションを行って行わない。又コンクリートが所定強度(300kg/cm²)以上達したことを確認の上で緊張作業を行う導入の確保は、シヤク等重量と鋼鉄の伸びによる。

7) アウト

PC鋼鉄の緊張作業終了後なるべく早期にシース内にアウトの注入を行う。水セメント比45%以下とする。

8) その他

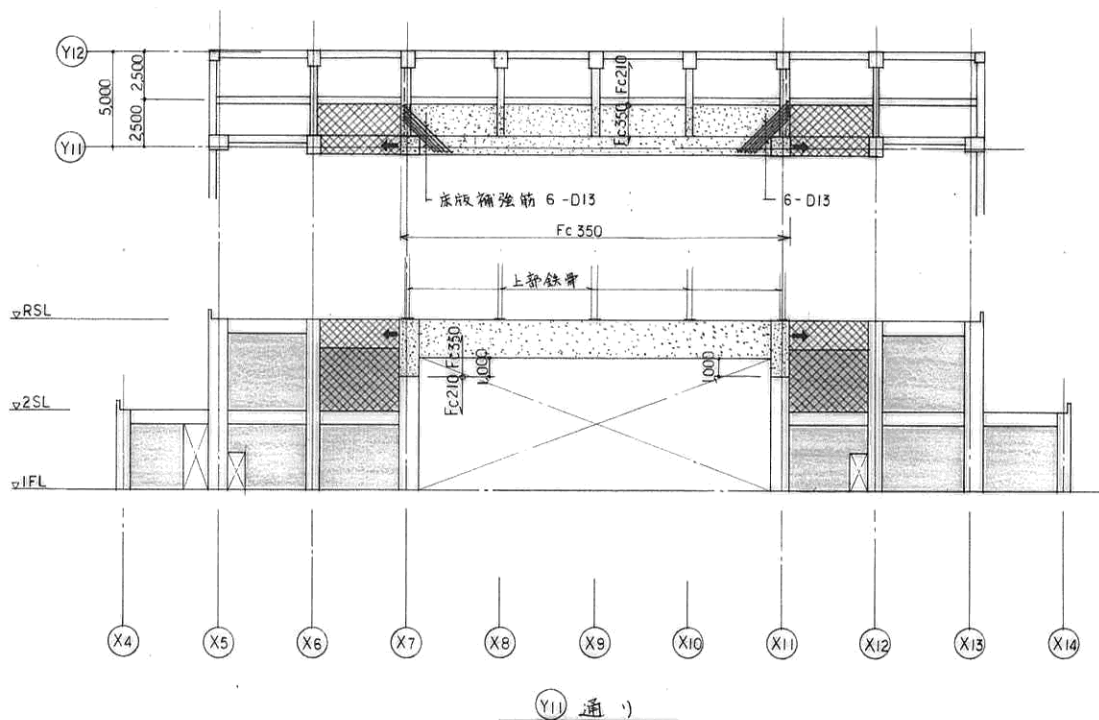
PC業者は所定のスレスレを導入した事を示す緊張管理図を含む施工報告書を提出し係員の承認を受けなければならない。

本工事コンクリート強度仕様

4週圧縮強度 : 350 kg/cm² 導入時圧縮強度 : 300 kg/cm²
相対湿度最大寸法 : 20 mm
標準スパン値 : 15 cm

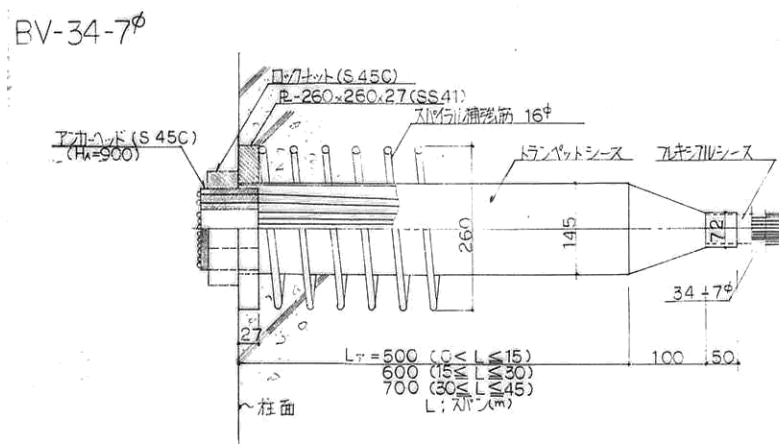
コンクリート打設区分及びスラブ補強図

緊張は上部鉄骨の建方完了後に行なうものとする。(両引き)



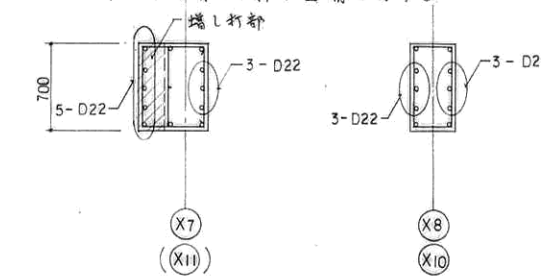
- 凡例
- コンクリート強度 $F_c = 350 \text{ kg/cm}^2$ 部分
 - 緊張端
 - 緊張アウト終了後の後打部分。緊張作業に支障があるスラフ等の鉄筋組は緊張アウト終了後に行なうものとする。

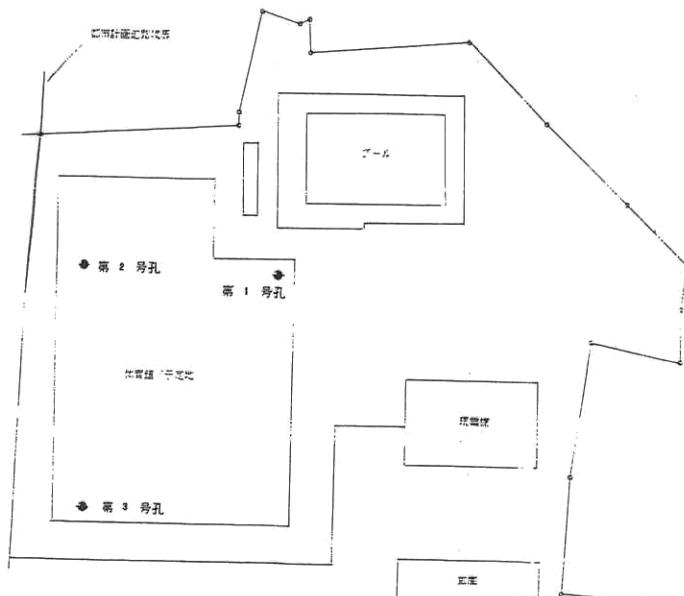
定着体詳細図



直交梁の腹筋補強

腹筋は柱及び梁にアンカーする。但しPCケ-ブル定着体の部分は定着体の手前で主筋を曲げる。



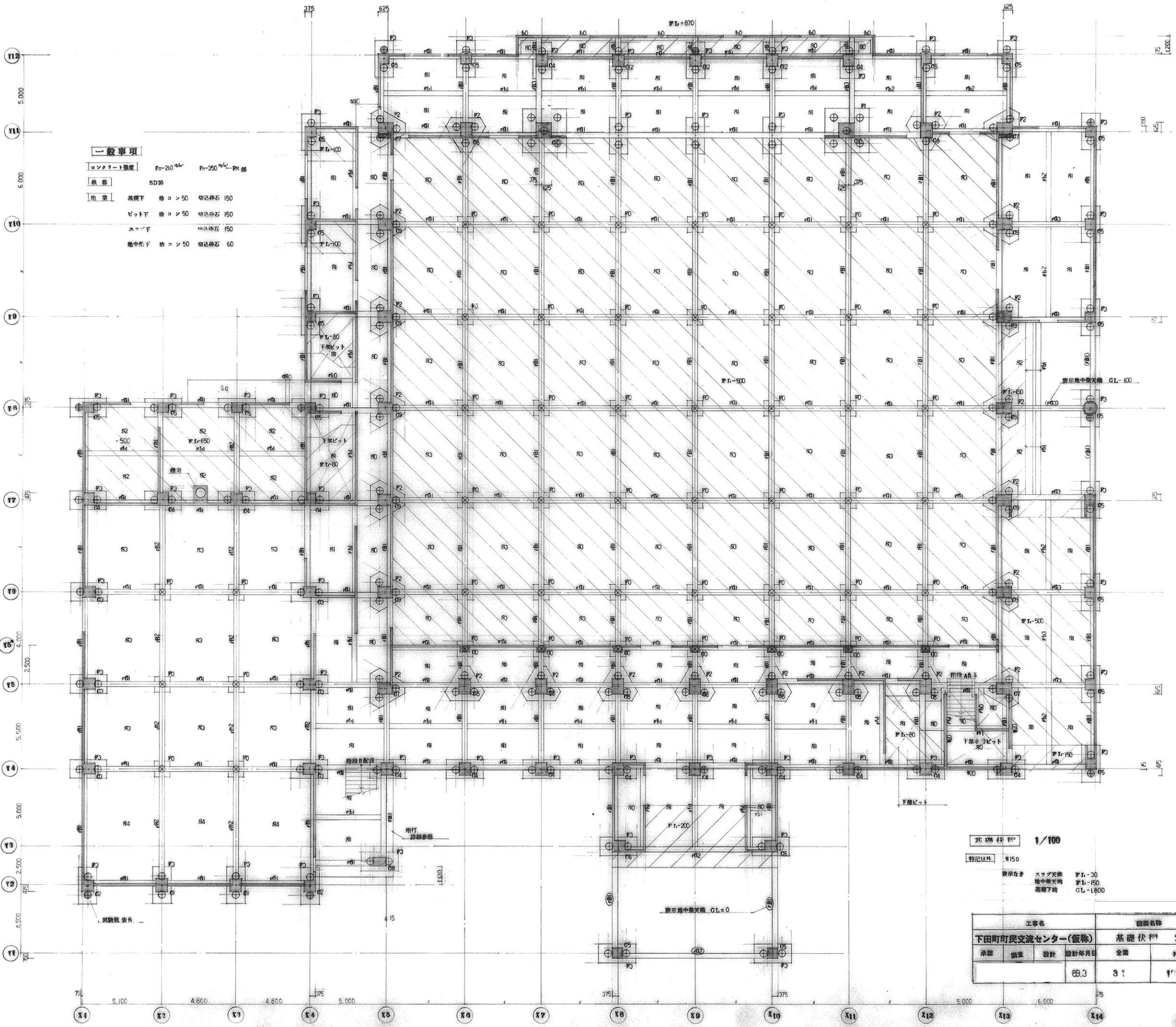


調査位置平面図

土質柱状図		報告用紙	
調査名称: 町民総合交流センター(仮称)		調査年月日: 平成27年11月27日	
調査地点: 東京都中央区新富町		調査地点: 東京都中央区新富町	
ボーリングNo. 1		ボーリングNo. 2	
深さ (m)	0.00	深さ (m)	0.00
1	0.50	1	0.50
2	1.00	2	1.00
3	1.50	3	1.50
4	2.00	4	2.00
5	2.50	5	2.50
6	3.00	6	3.00
7	3.50	7	3.50
8	4.00	8	4.00
9	4.50	9	4.50
10	5.00	10	5.00
11	5.50	11	5.50
12	6.00	12	6.00
13	6.50	13	6.50
14	7.00	14	7.00
15	7.50	15	7.50
16	8.00	16	8.00
17	8.50	17	8.50
18	9.00	18	9.00
19	9.50	19	9.50
20	10.00	20	10.00
21	10.50	21	10.50
22	11.00	22	11.00
23	11.50	23	11.50
24	12.00	24	12.00
25	12.50	25	12.50
26	13.00	26	13.00
27	13.50	27	13.50
28	14.00	28	14.00
29	14.50	29	14.50
30	15.00	30	15.00

土質柱状図		報告用紙	
調査名称: 町民総合交流センター(仮称)		調査年月日: 平成27年11月27日	
調査地点: 東京都中央区新富町		調査地点: 東京都中央区新富町	
ボーリングNo. 2		ボーリングNo. 3	
深さ (m)	0.00	深さ (m)	0.00
1	0.50	1	0.50
2	1.00	2	1.00
3	1.50	3	1.50
4	2.00	4	2.00
5	2.50	5	2.50
6	3.00	6	3.00
7	3.50	7	3.50
8	4.00	8	4.00
9	4.50	9	4.50
10	5.00	10	5.00
11	5.50	11	5.50
12	6.00	12	6.00
13	6.50	13	6.50
14	7.00	14	7.00
15	7.50	15	7.50
16	8.00	16	8.00
17	8.50	17	8.50
18	9.00	18	9.00
19	9.50	19	9.50
20	10.00	20	10.00
21	10.50	21	10.50
22	11.00	22	11.00
23	11.50	23	11.50
24	12.00	24	12.00
25	12.50	25	12.50
26	13.00	26	13.00
27	13.50	27	13.50
28	14.00	28	14.00
29	14.50	29	14.50
30	15.00	30	15.00

土質柱状図		報告用紙	
調査名称: 町民総合交流センター(仮称)		調査年月日: 平成27年11月27日	
調査地点: 東京都中央区新富町		調査地点: 東京都中央区新富町	
ボーリングNo. 3		ボーリングNo. 4	
深さ (m)	0.00	深さ (m)	0.00
1	0.50	1	0.50
2	1.00	2	1.00
3	1.50	3	1.50
4	2.00	4	2.00
5	2.50	5	2.50
6	3.00	6	3.00
7	3.50	7	3.50
8	4.00	8	4.00
9	4.50	9	4.50
10	5.00	10	5.00
11	5.50	11	5.50
12	6.00	12	6.00
13	6.50	13	6.50
14	7.00	14	7.00
15	7.50	15	7.50
16	8.00	16	8.00
17	8.50	17	8.50
18	9.00	18	9.00
19	9.50	19	9.50
20	10.00	20	10.00
21	10.50	21	10.50
22	11.00	22	11.00
23	11.50	23	11.50
24	12.00	24	12.00
25	12.50	25	12.50
26	13.00	26	13.00
27	13.50	27	13.50
28	14.00	28	14.00
29	14.50	29	14.50
30	15.00	30	15.00



一般事項

コンクリート強度 F_c-210^{MPa} F_c-350^{MPa} 鋼筋

鉄筋 SD30

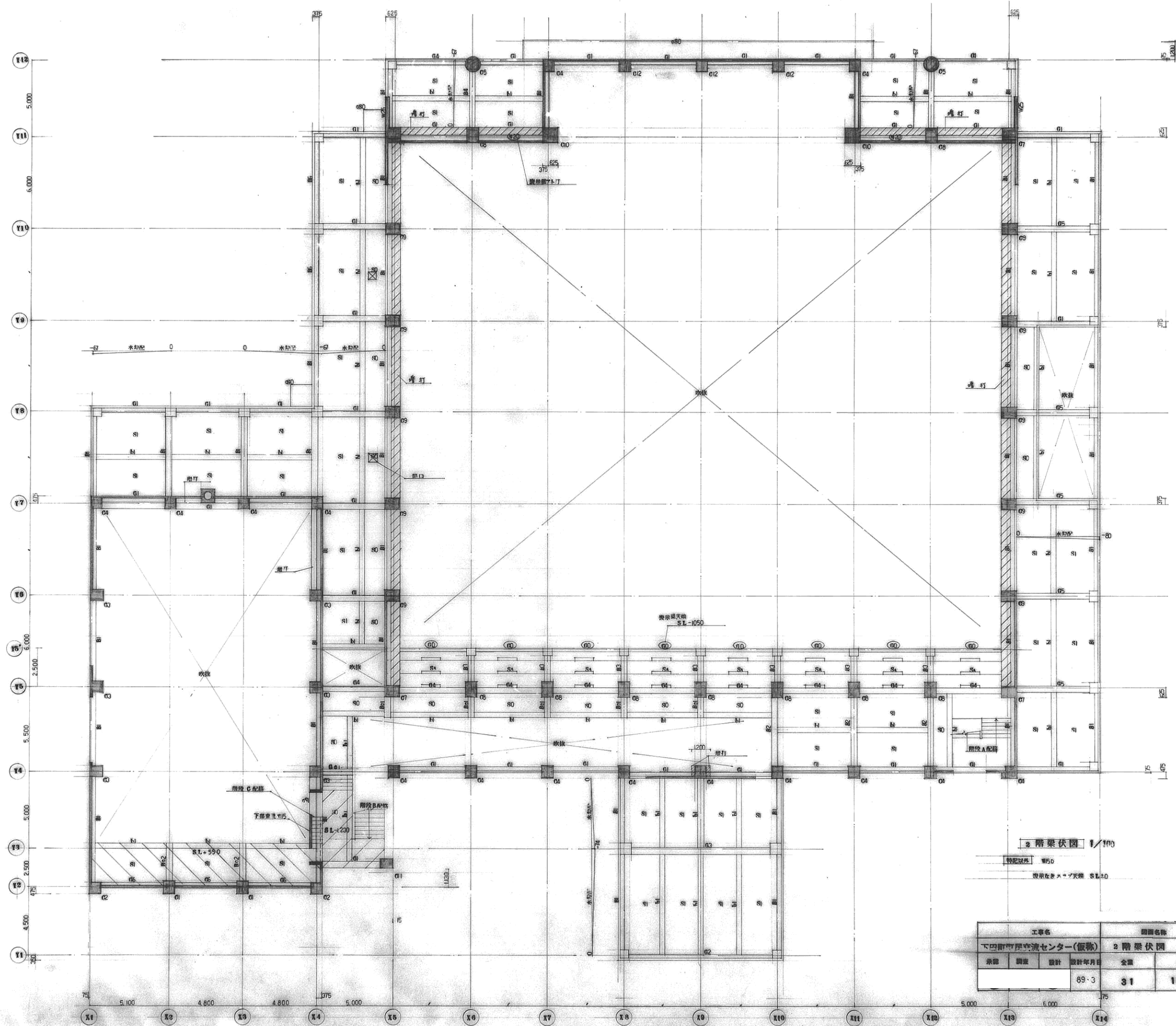
地盤 高層下 砕コン50 切込砕石150
 ビット下 砕コン50 切込砕石150
 スラブ下 砕コン50 切込砕石150
 地中層下 砕コン50 切込砕石50

基礎伏図 1/100

特記以外 詳150

表示なき スラブ天端 F_L-30
 地中層天端 F_L-150
 基礎下層 GL-1800

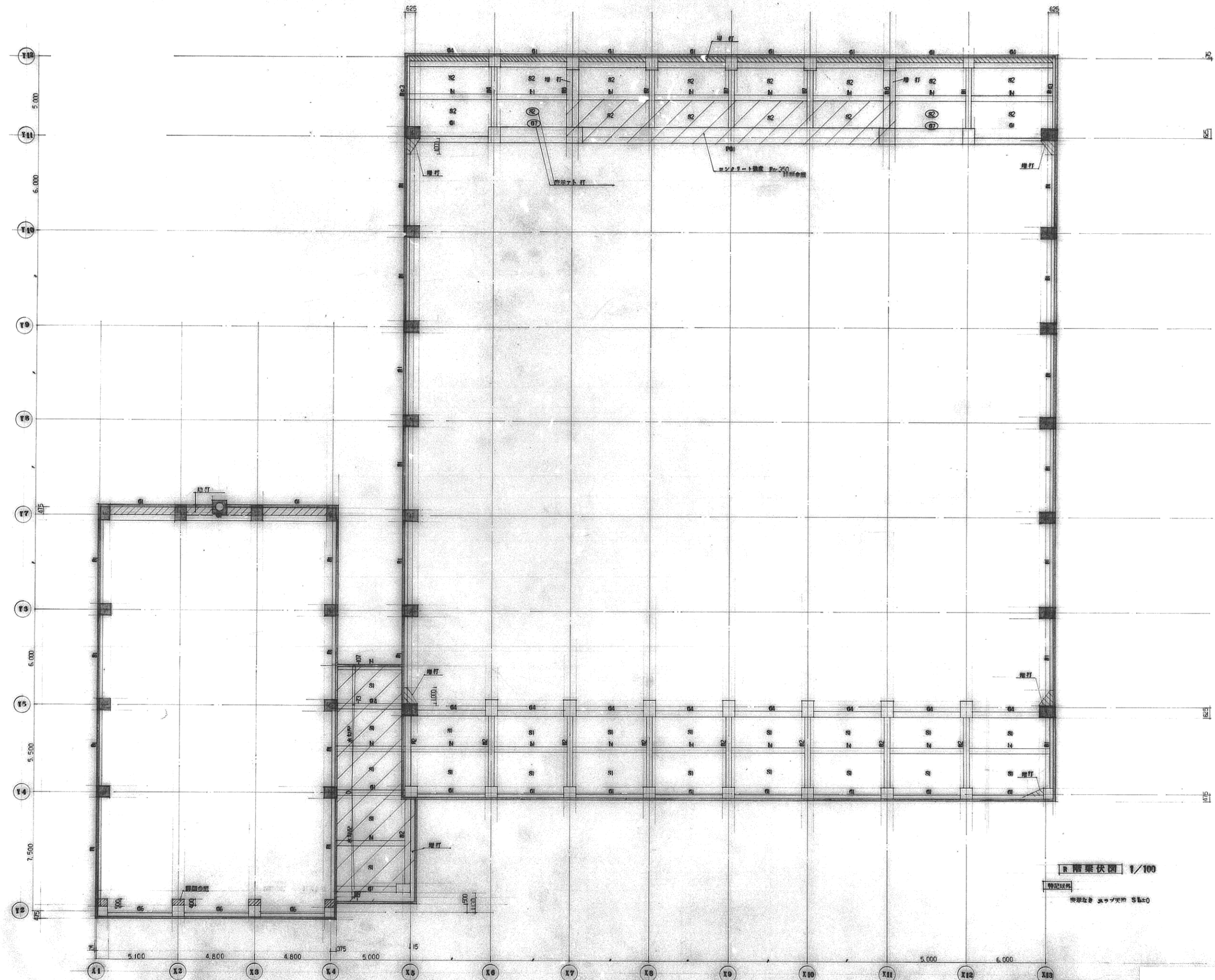
工事名		図面名称	
下田町町民交流センター(仮称)		基礎伏図 S=1/100	
承認	調査	設計	設計年月日
			89.3
		31	115



2階梁伏図 1/100

特記以外 W50
 表示なきマップ天井 S.L.:0

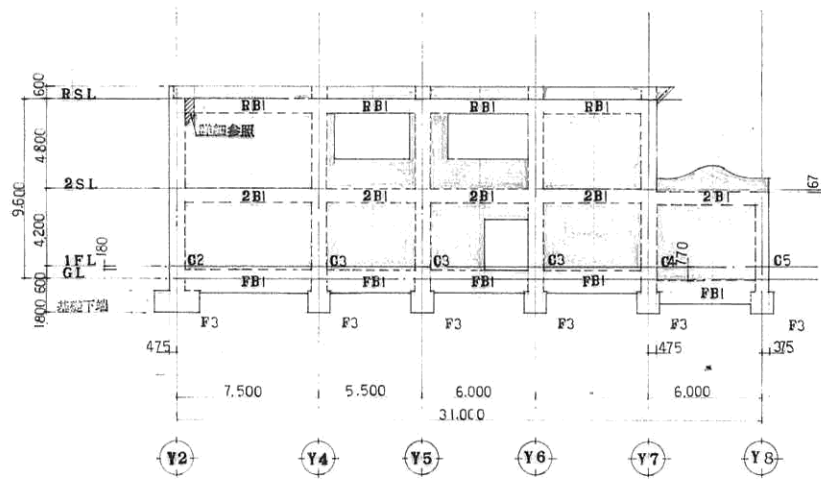
工事名				図面名称	
マロウワシビル流通センター(仮称)				2階梁伏図 S-100	
承認	調査	設計	設計年月日	全案	NO
			89.3	31	106



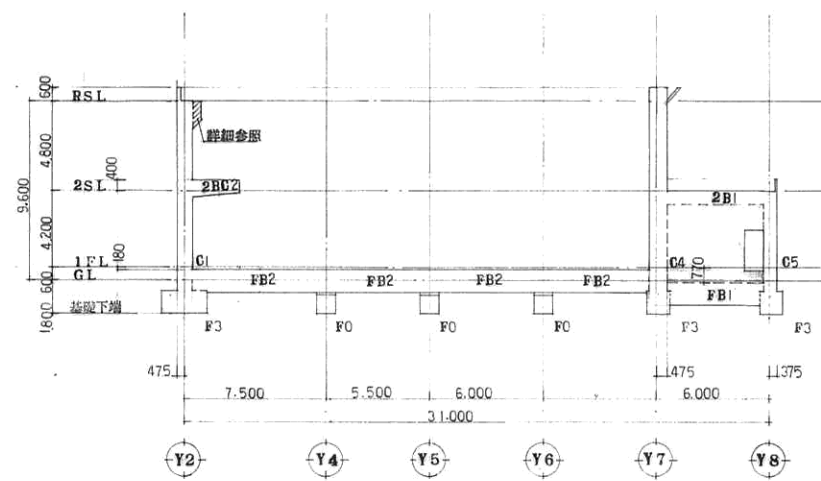
2階築伏図 1/100

特記以外
表示なし スラブ厚 S₁=0

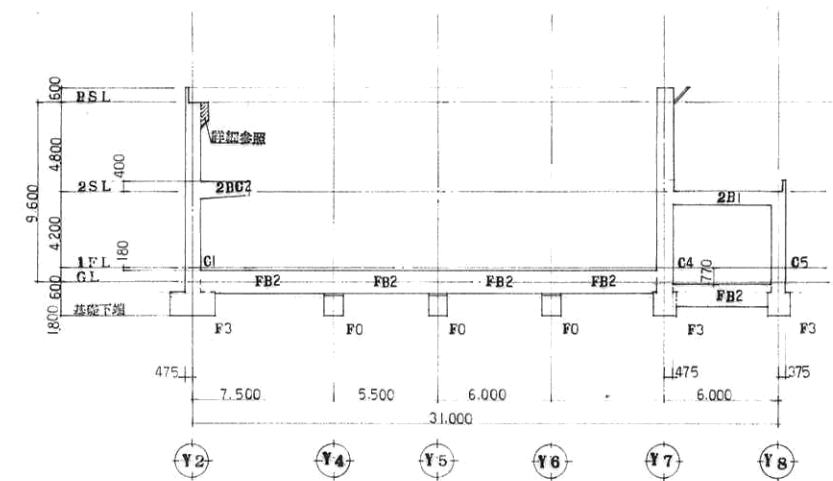
工事名				図面名称	
下田町町民交流センター(仮称)				2階築伏図 S=1/100	
承認	調査	設計	設計事務所	全案	NO
			89-3	31	107



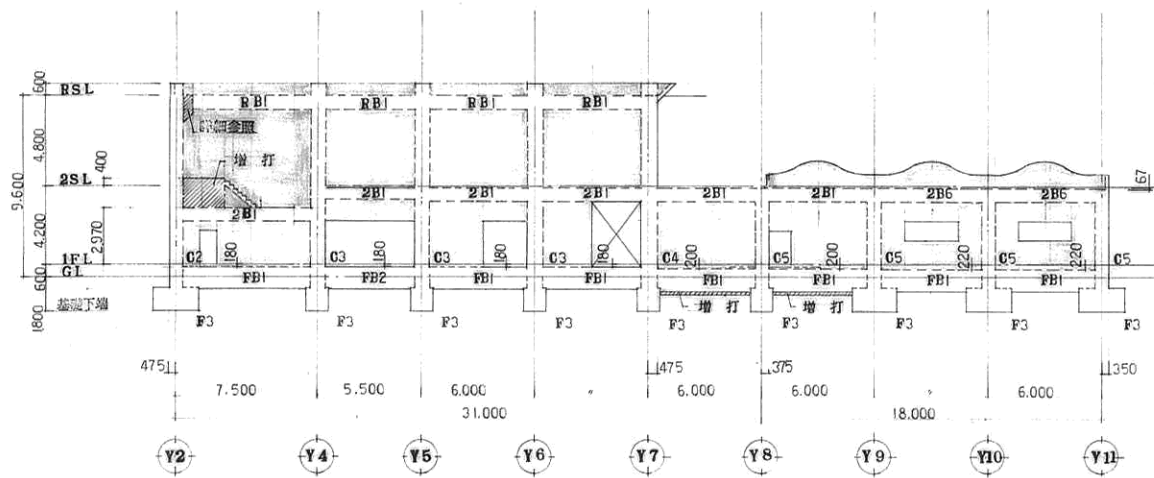
(X1) 通り軸組図 1/200



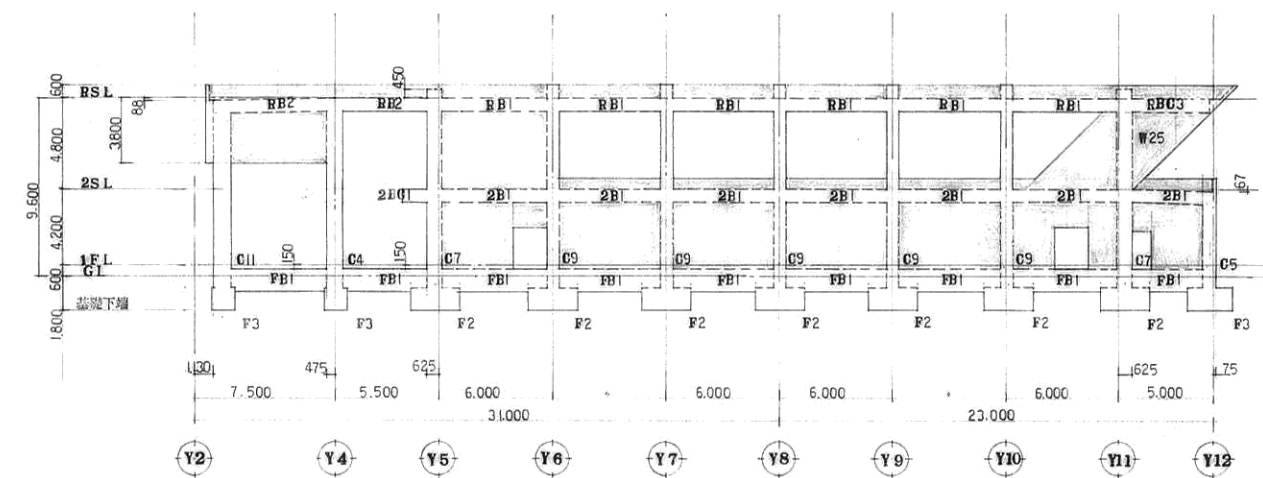
(X2) 通り軸組図 1/200



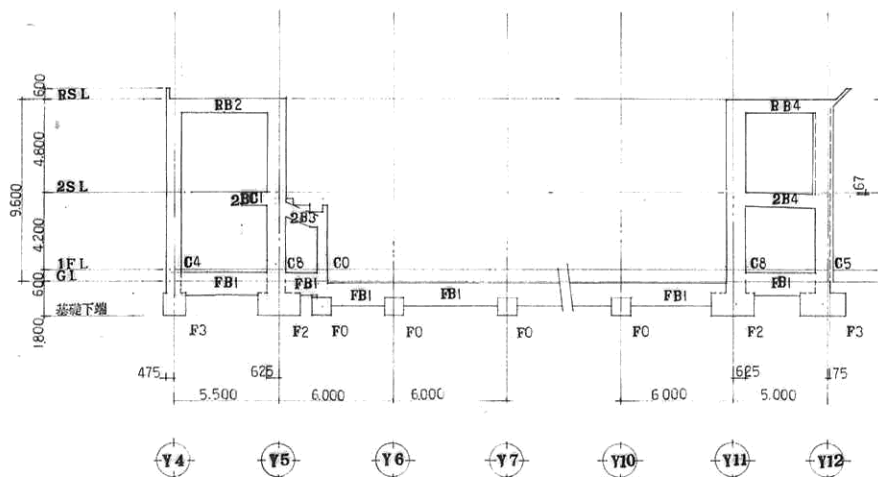
(X3) 通り軸組図 1/200



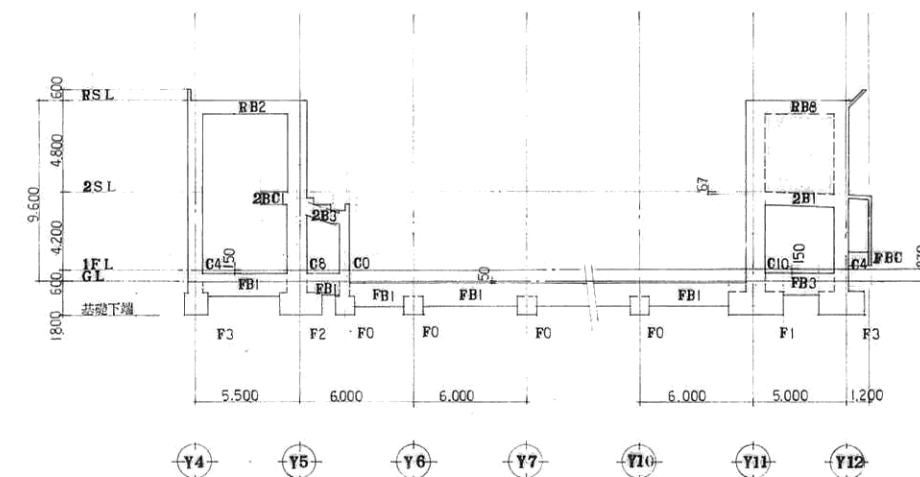
(X4) 通り軸組図 1/200



(X5) 通り軸組図 1/200



(X6) 通り軸組図 1/200



(X7) 通り軸組図 1/200

〔詳細以外 カン W15.D〕

備考

整理番号

設計年月日

全葉

No.

工事名 下田町町民交流センター(仮称)

工事

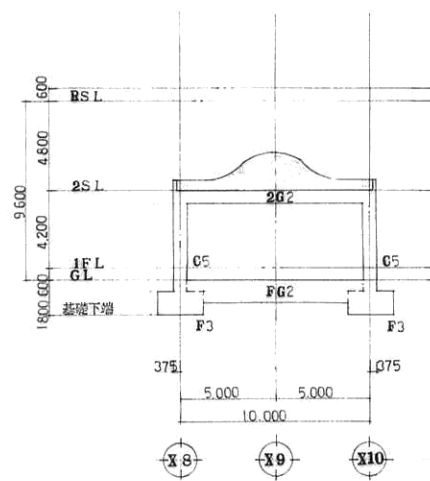
8.3

31

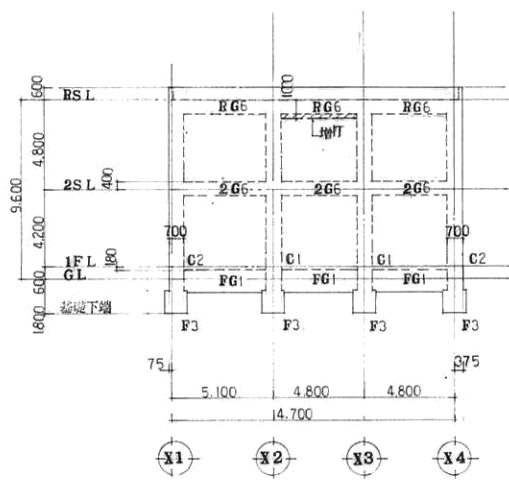
108

図面名称 軸組図(1)

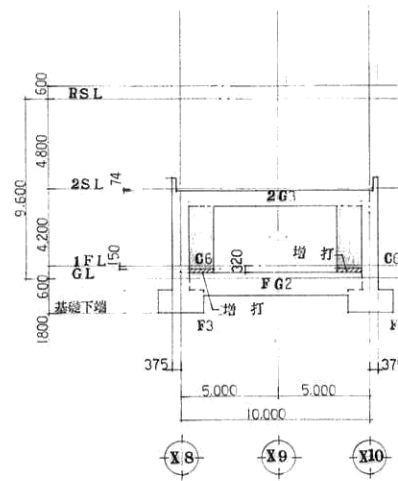
Scale 1/200



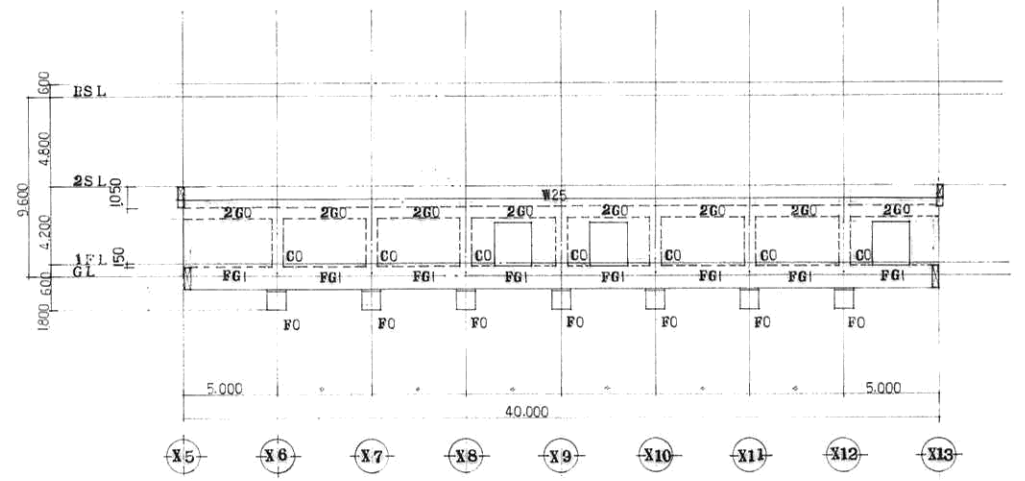
(Y1) 通り軸組図 1/200



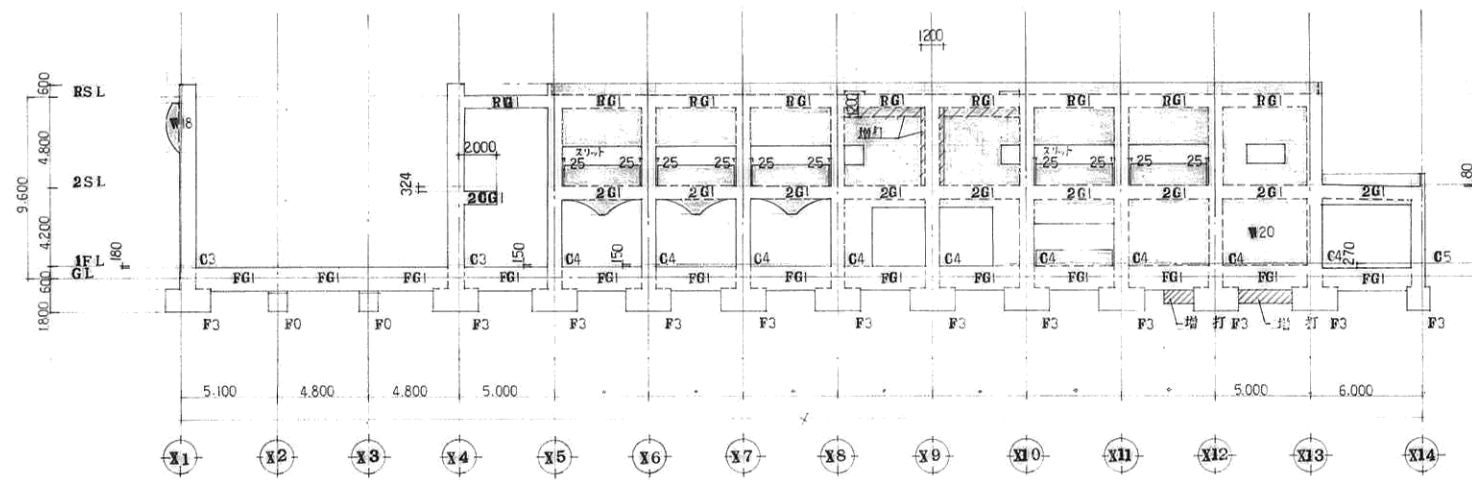
(Y2) 通り軸組図 1/200



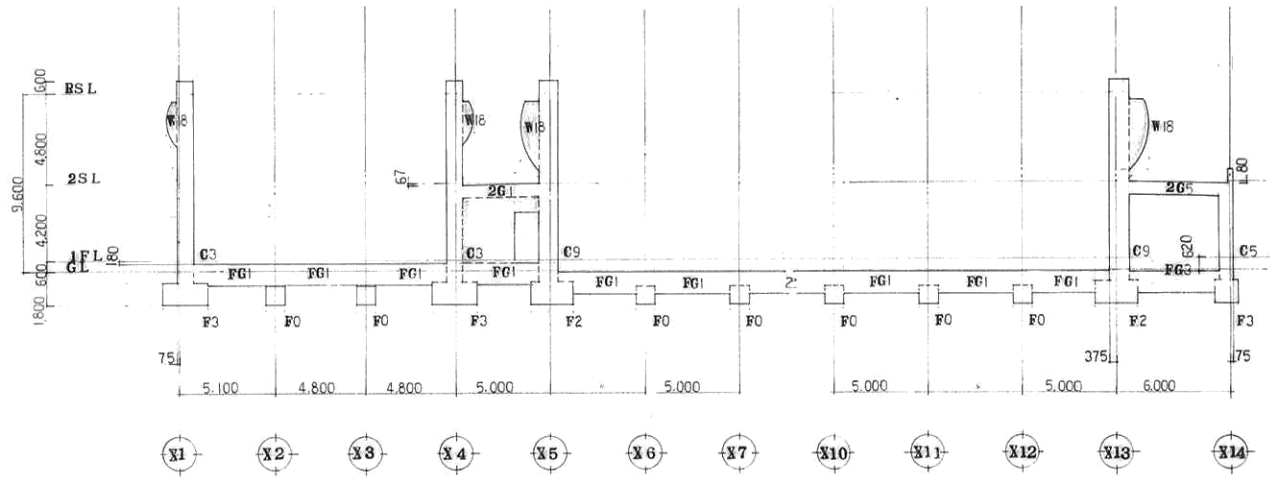
(Y3) 通り軸組図 1/200



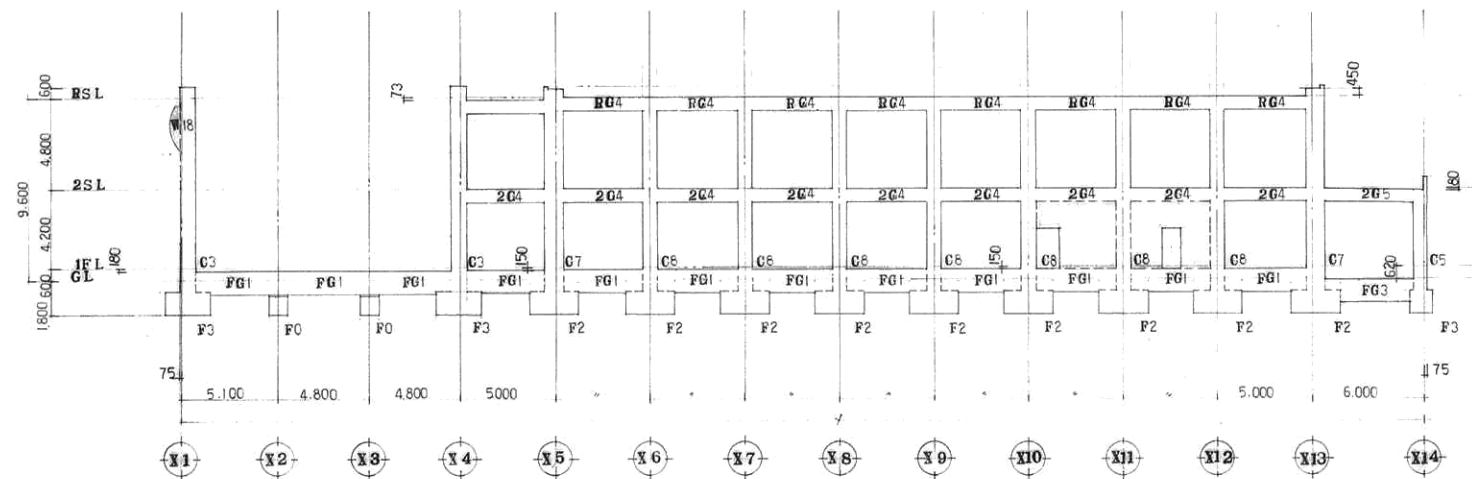
(Y5) 通り軸組図 1/200



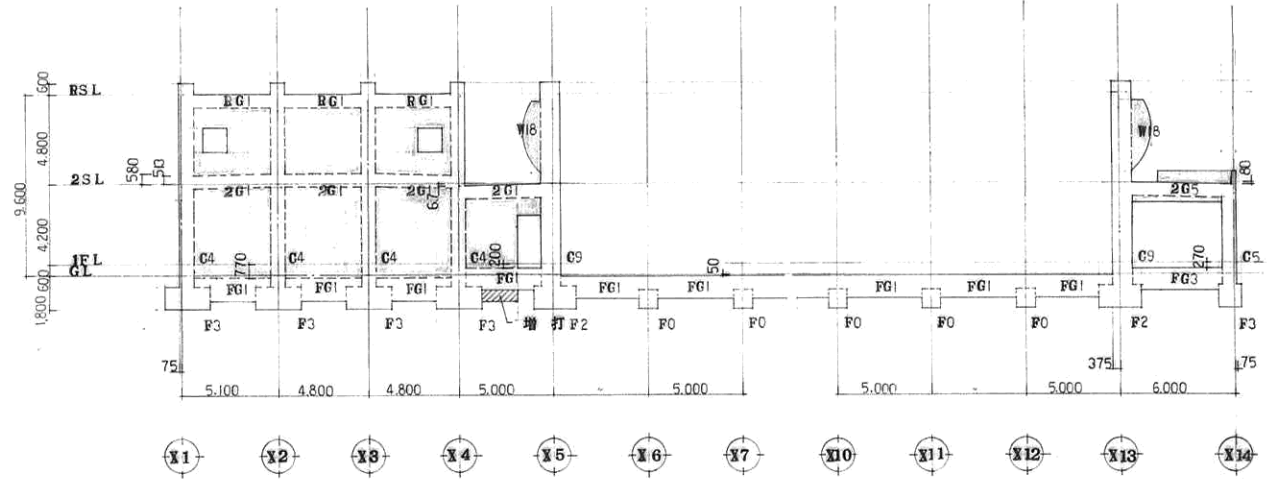
(Y4) 通り軸組図 1/200



(Y6) 通り軸組図 1/200



(Y5) 通り軸組図 1/200



(Y7) 通り軸組図 1/200

【特記以外 カン W15.D】

備考

整理番号

設計年月日

全葉

No.

工事名 下田町町民交流センター(仮称)

工事

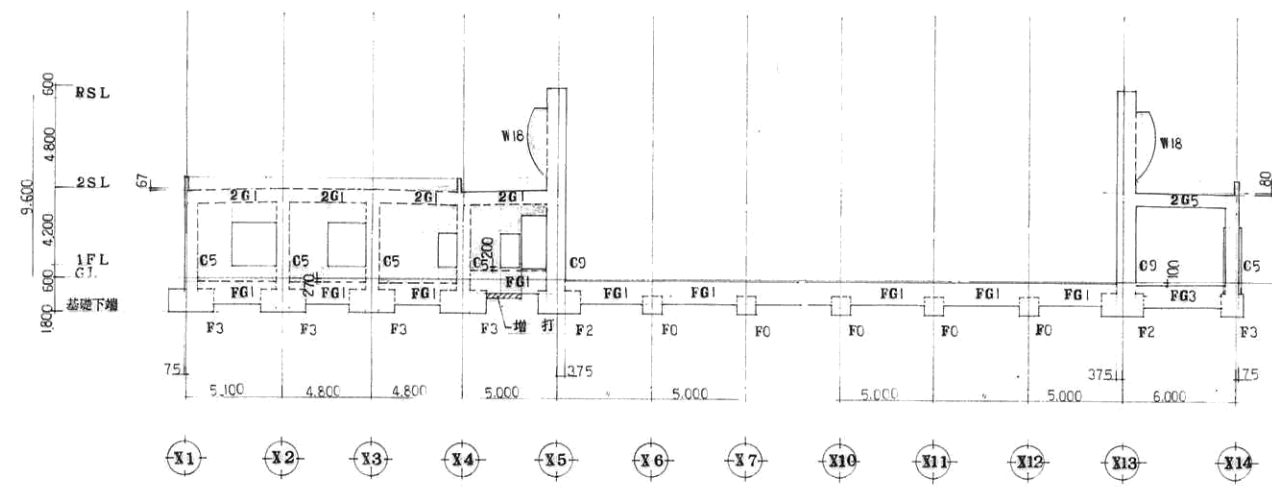
89.3

31

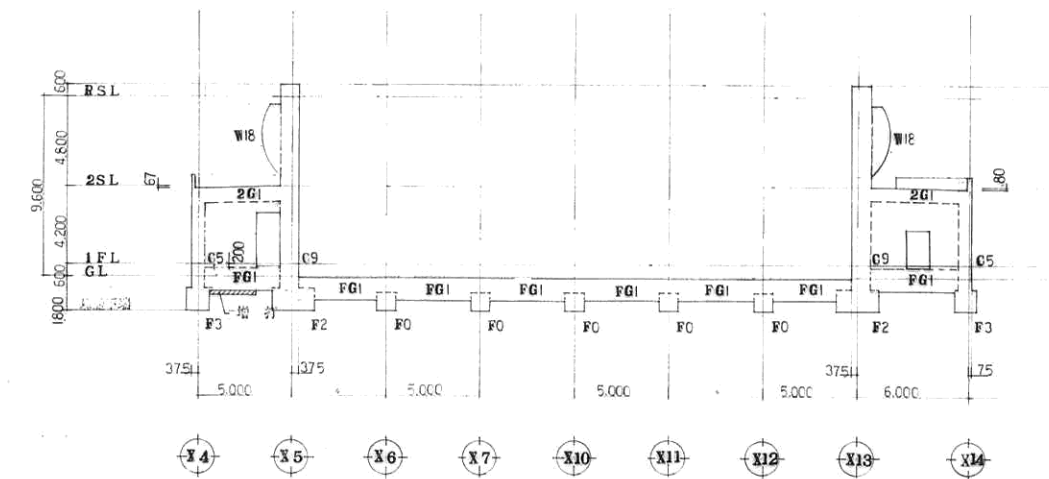
110

図面名称 軸組図(3)

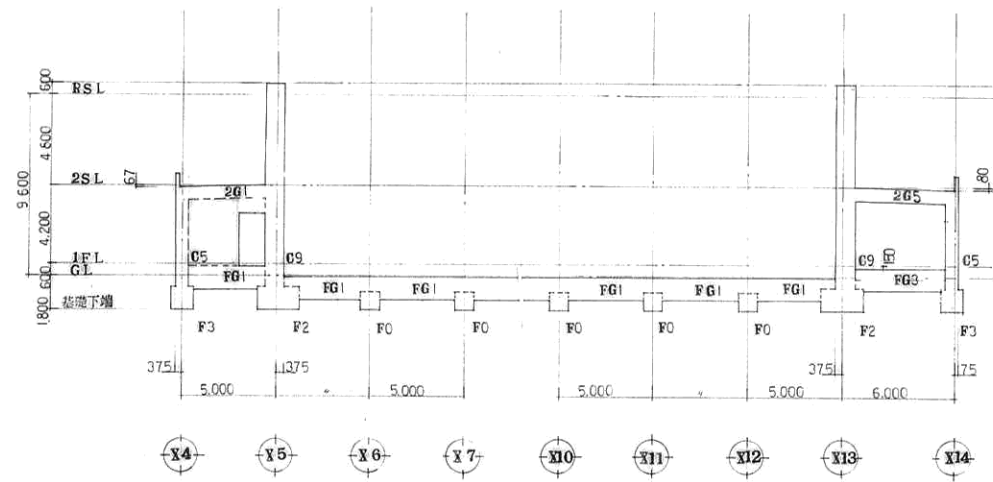
Scale 1/200



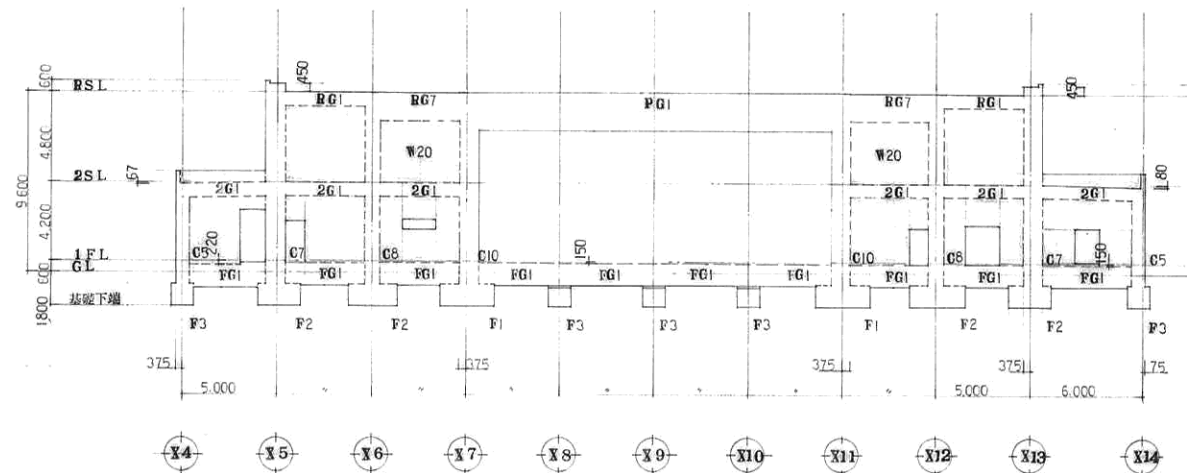
Y8 通り軸組図 1/200



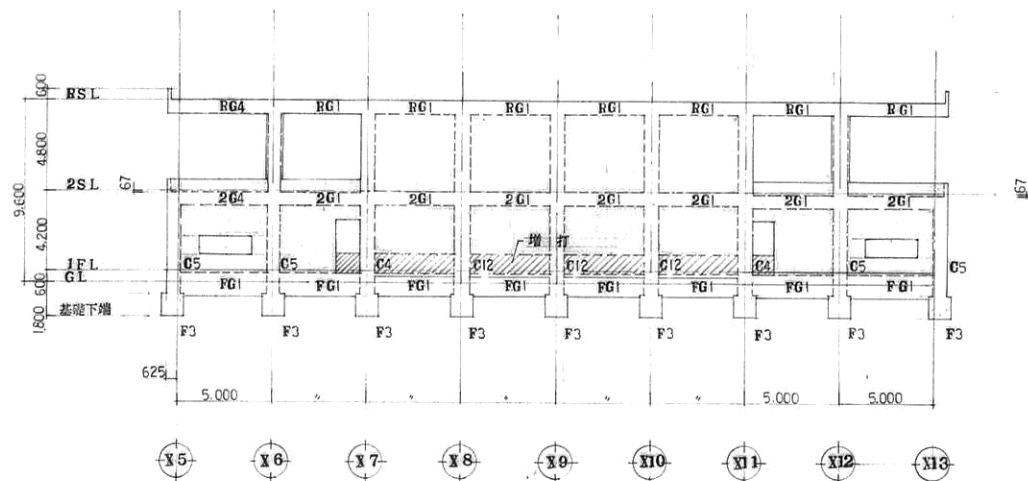
Y9 通り軸組図 1/200



Y10 通り軸組図 1/200



Y11 通り軸組図 1/200



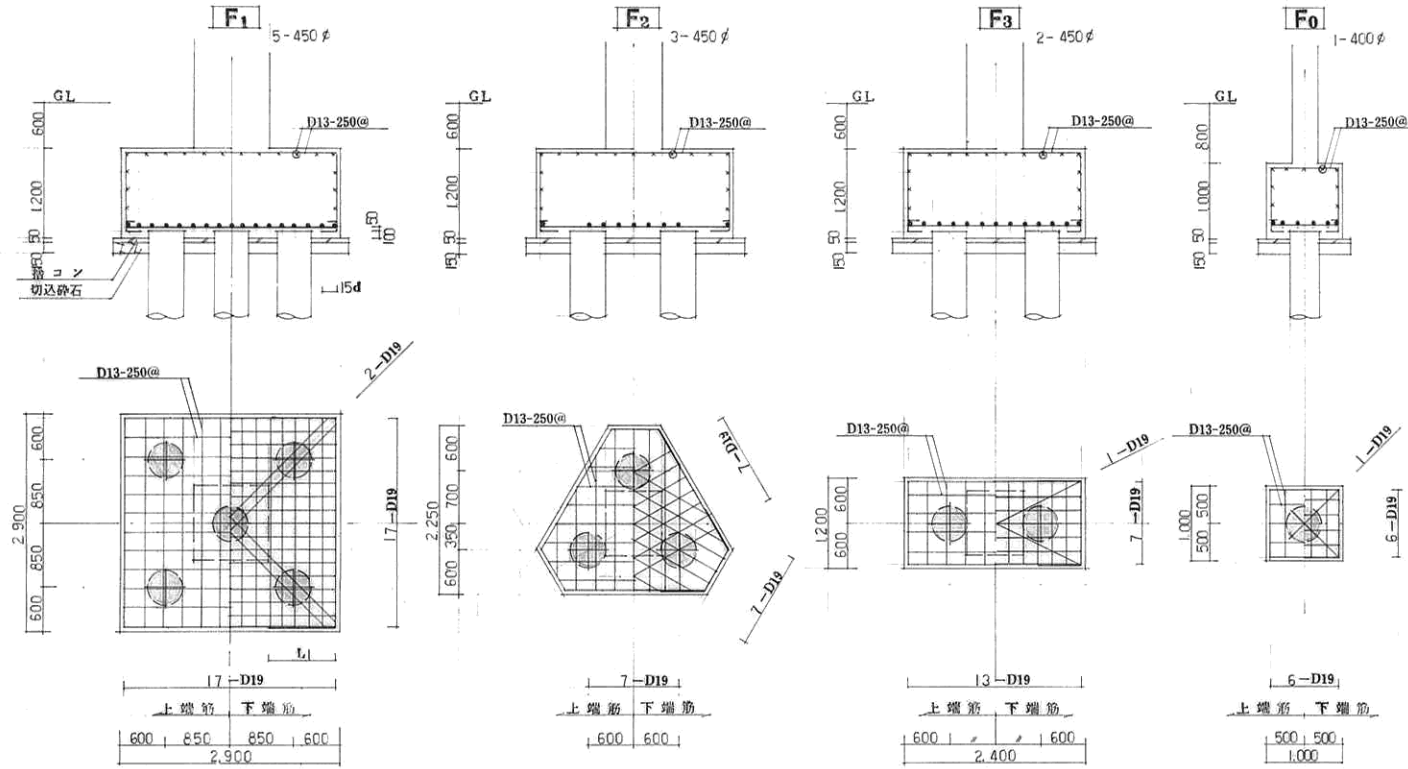
Y12 通り軸組図 1/200

増打以外 カハ W15 D

備考

整理番号

設計年月日	全業	No.	工事名	下田町町民交流センター(仮称)	工事
89.3	31	111	図面名称	軸組図(4)	Scale 1/200



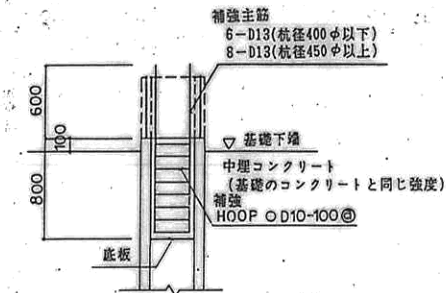
杭仕様

杭種	PHCパイプ	ネーガー併用 32.0m
杭径	450φ 400φ	設計耐力 79.4t/本 ⊕表示 設計耐力 62.8t/本 ⊗表示
杭長	L=12.0+2.0+0.0 L=12.0+2.0+1.0 L=12.0+2.0+0.0 L=12.0+10.0+0.0	179セット (450φ) 10セット (450φ) — 試験杭 48セット (400φ) 6セット (400φ) — 環状部 (L=32.0m)
試験杭	⊕表示は本杭と異なるものとする。	
その他	ネーガー併用打込杭	

※試験杭打込結果により変更後実績長さ。

L=(10°+10°+7°)27°H	24セット (450φ)
L=(10°+10°+8°)28°H	26セット (450φ)
L=(9°+10°+10°)29°H	40セット (450φ)
L=(10°+10°+10°)30°H	30セット (450φ)
L=(12°+10°+8°)30°H	9セット (450φ)
L=(12°+12°+11°)35°H	10セット (450φ)
L=(10°+10°+8°)28°H	18セット (400φ)

試験杭



杭頭補強要領図

1. 基礎下端鉄筋のかぶり厚さは、杭天端から確保する。
2. 杭鉄筋は切断しないで基礎内に定着させる。
3. 杭頭処理は油圧パイプカッター使用のこと。

特記以外
 スターラップ D13-200@
 縦筋 2-D13
 巾止メ筋 D10-1000@

符号	FG1		FG2		FG3	
	両端	中央	両端	中央	両端	中央
断面						
上端筋	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	4-D25	3-D25
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25
スターラップ						

符号	FB1		FB2		FB3		FBc	
	両端	中央	両端	中央	両端	中央	端部	先端
断面								
上端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25
スターラップ								

符号	
位置	
断面	
上端筋	
下端筋	
スターラップ	

特記以外
 スターラップ D10-200@
 縦筋 2-D10
 巾止メ筋 D10-1000@

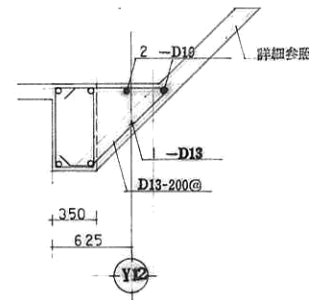
符号	Fb1		Fb2		Fb3	
	全断面	外端 中央	内端	両端	中央	
断面						
上端筋	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	3-D22	
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	
スターラップ						

総記号: スターラップ D13-200@
 縦筋: D13
 山止メ筋: D10-1000@

階	符号	G1		G2		G3		G4		G5		G6		G0
	位置	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	全断面
R	断面													
		L350						L350				L350		
	上端筋	3-D25	3-D25					3-D25	3-D25			3-D25	3-D25	
	下端筋	3-D25	3-D25					3-D25	3-D25			3-D25	3-D25	
	スターラップ													
2	断面													
		L400		L400		L450		L400		L400		L350		250
	上端筋	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	9-D25	3-D25	4-D25	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	2-D25
	下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	9-D25	5-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25	2-D25
	スターラップ					D13-100@								

階	符号	G7		
	位置	X7, X11端	中央	他端
R	断面			
		1,500		
	上端筋	7-D25	4-D25	
	下端筋	7-D25	4-D25	
	スターラップ	D13-125@		

梁増打配筋図 1/30



階	符号	PG1	
	位置	両端	中央
R	断面		
		360, 280, 420, 280, 250	1760, 2000
	上端筋	7-D25	5-D25
	下端筋	5-D25	7-D25
	スターラップ	D13-150@	
	P C 鋼材	8C-BY-34-7	

階	符号	B1		B2		B3			B4			B5		B6				
		両端	中央	両端	中央	Y5端	中央	Y5'端	Y11端	中央	Y12端	両端	中央	両端	中央			
R	断面					/								/				
	上端筋	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25				3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25			3-D25	3-D25	
	下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25				3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25			3-D25	3-D25	3-D25
	スターラップ																	
2	断面																	
	上端筋	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	6-D25	6-D25	6-D25	5-D25	3-D25	4-D25	4-D25	3-D25	5-D25	3-D25			
	下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	6-D25	6-D25	6-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25			
	スターラップ																	

階	符号	BC1, GC1		BC2		B7		B8	
		端部	先端	端部	先端	両端	中央	全断面	
R	断面	/		/					
	上端筋					8-D25	4-D25	3-D25	
	下端筋					6-D25	4-D25	3-D25	
	スターラップ					D13-150@			
2	断面					/		/	
	上端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25				
	下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25				
	スターラップ								

階	符号	BC3	
		端部	先端
R	断面		
	上端筋	3-D25	3-D25
	下端筋	2-D25	2-D25
	スターラップ		

備考

整理番号

設計年月日 89.3

全葉 31

No. 115

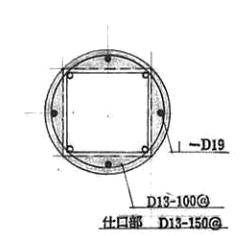
工事名 下田町町民交流センター(仮称)
 図面名称 大梁リスト(2)

Scale 1/30

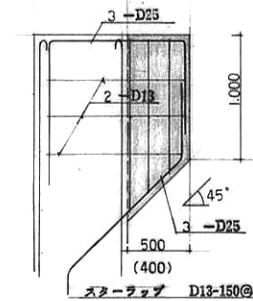
階	符号	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9
2	断面									
	主筋 フープ	12-D25	12-D25	12-D25	12-D25	12-D25		14-D25	14-D25	16-D25
1	断面									
	主筋 フープ	14-D25	12-D25	18-D25	12-D25	12-D25	16-D25	14-D25	14-D25	16-D25

階	符号	C0	C10	C11	C12
2	断面				
	主筋 フープ		18-D25	10-D25	14-D25
1	断面				
	主筋 フープ	8-D25	18-D25	10-D25	14-D25

柱増打配筋図 1/30



ブラケット配筋図 1/30



床版リスト

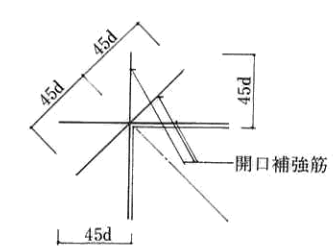
符号	版厚	位置	短辺方向 (主筋)			長辺方向 (副筋)			備考 (長辺、短辺長さ等記入)
			端部(A)	中央(B)	柱列帯(C, D)	端部(D)	中央(B)	柱列帯(A, C)	
S ₀	120	上端筋	D10-200@	D10-200@	D10-200@	D10-200@	D10-200@	D10-200@	
		下端筋	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
S ₁	120	上端筋	D10, D13-200@	D13-400@	D10-250@	D10-200@	D10-400@	D10-250@	
		下端筋	D10-400@	D10-200@	D10-250@	D10-400@	D10-200@	D10-250@	
S ₂	120	上端筋	D10, D13-200@		D10-250@	D10-200@		D10-250@	
		下端筋	D10-400@	D10-200@	D10-250@	D10-400@	D10-200@	D10-250@	
S ₃	150	上端筋	D10, D13-200@	D10, D13-200@	D10, D13-200@	D10, D13-200@	D10, D13-200@	D10, D13-200@	
		下端筋	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
S ₄	150	上端筋	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@	
		下端筋	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@	

壁リスト

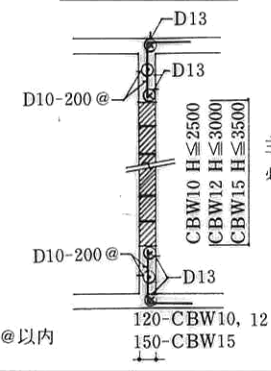
注意事項 1) 符号“S”はシングル、“D”はダブル配筋を示す
2) 幅止め筋はD10-1000@以内とする

符号	CBW	W12	W15	W15D	W18	W20	W25	W30
断面								
タテ筋	D10-400@S	D10-200@S		D10-250@ ナドリ	D10-200@ n	D10-200@ n	D13-200@ n	
ヨコ筋	同上	同上		D10-250@ ナドリ	D10-200@ n	D10-200@ n	D13-200@ n	
ブレース筋			各2-D13S					
開補強口筋	タテ筋 1-D13S	D13S		3-D13	2-D16	2-D16	2-D16	
	ヨコ筋 1-D13S	D13S		3-D13	2-D16	2-D16	2-D16	
	ナナメ筋	D13S		3-D13	2-D16	2-D16	2-D16	

壁開口補強要領図



CBW補強要領図



主要支点間距離Hが左記の式を満足する様、必要に応じてRCの腰又はタレ壁を設ける。

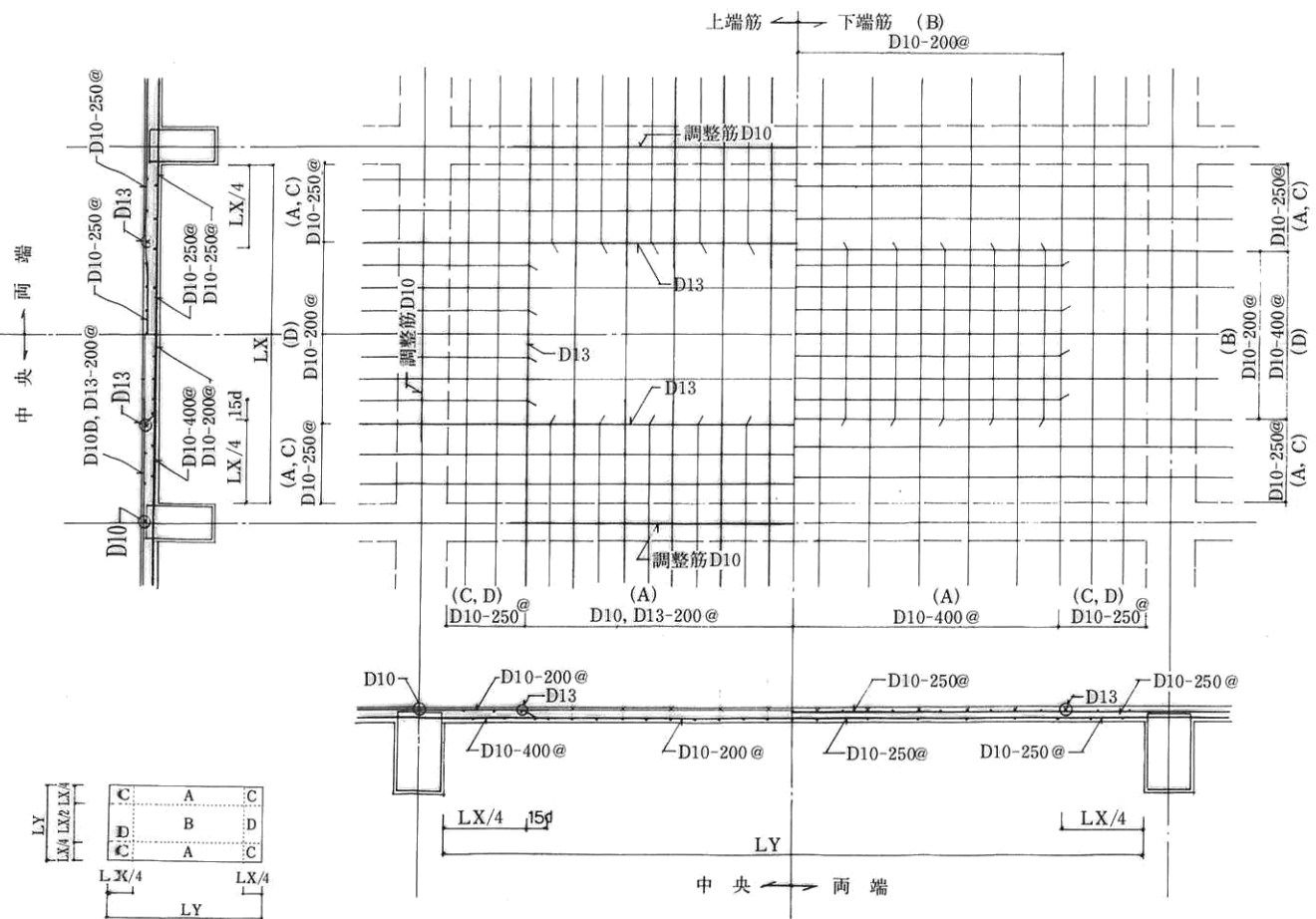
小梁リスト

特記以外 1) スターラップD10-200 @ 2) 腹筋2-D10 3) 巾止筋 D10-1000@以内
4) 継手及び定着要領は基準図8参照 中吊受筋

符号	b ₁	b ₀
位置	全断面	全断面
断面		
b × D	350 × 600	250 × 600
上端筋	3-D22	2-D22
下端筋	3-D22	2-D22
スターラップ		

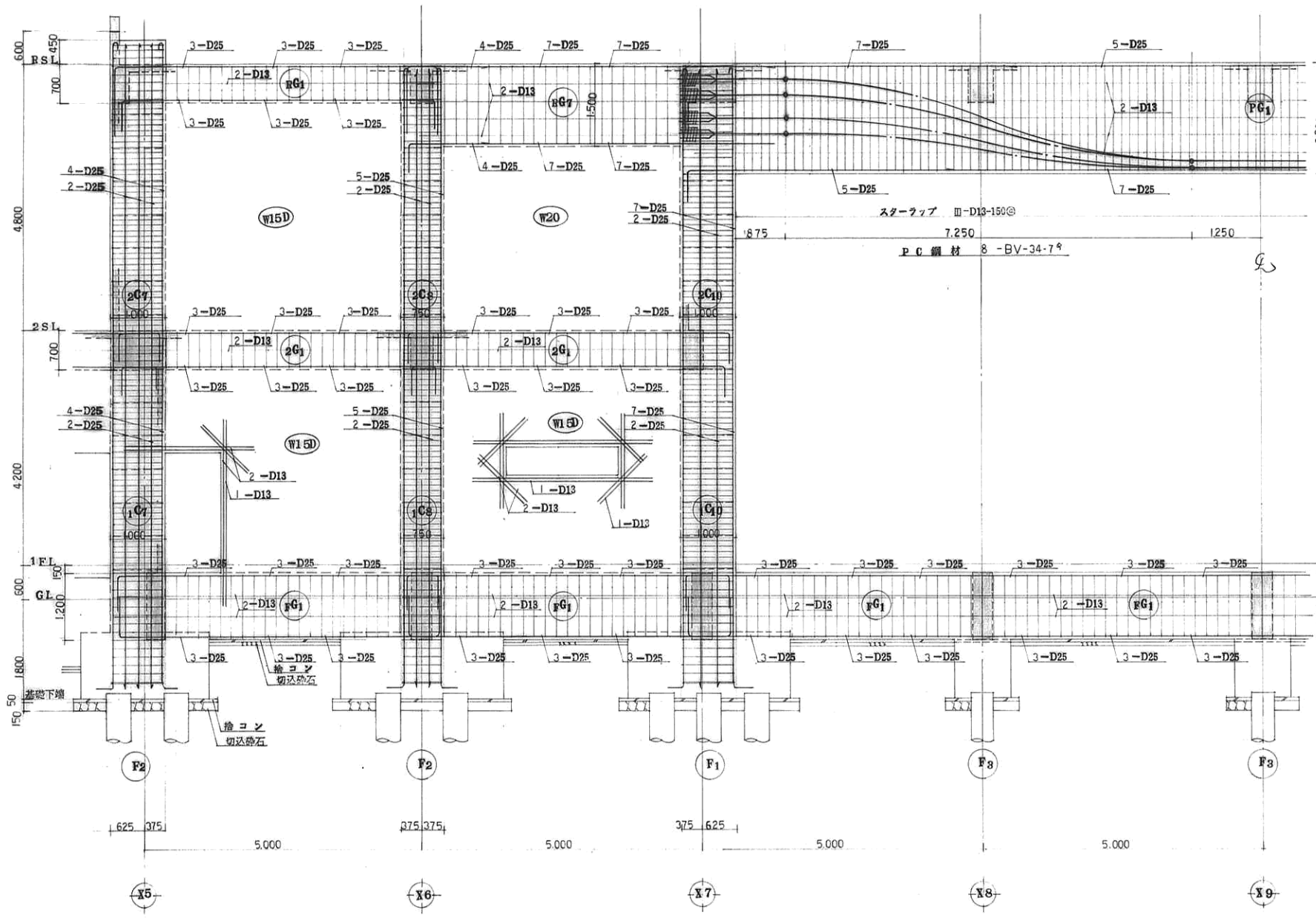
符号	位置
断面	
b × D	
上端筋	
下端筋	
スターラップ	

符号	位置
断面	
b × D	
上端筋	
下端筋	
スターラップ	



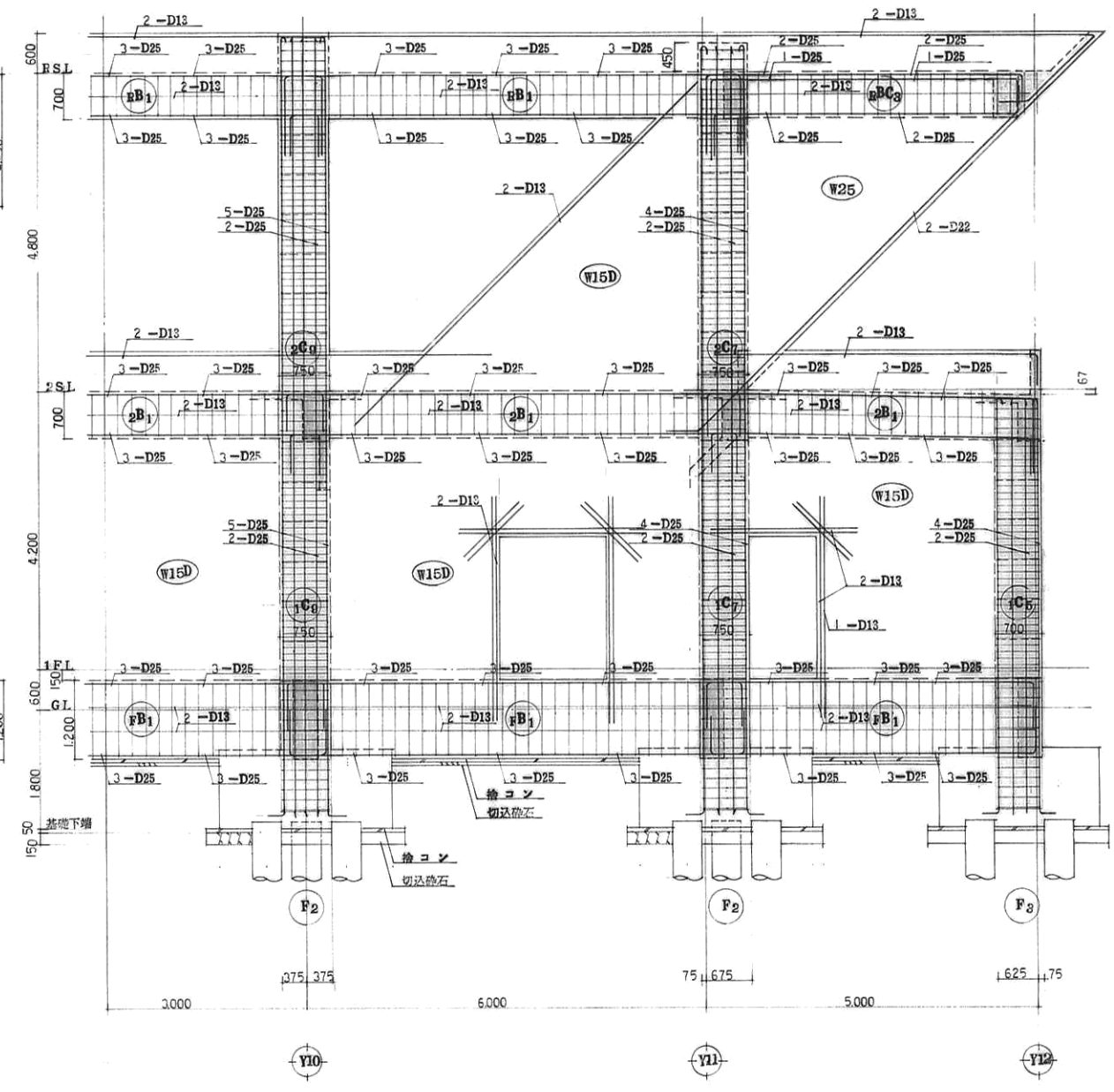
S₂ 配筋詳細図

注意事項 梁筋施工の関係でスラブ上端筋位置確保が困難な箇所に、下記の要領で調整筋D10を設ける。



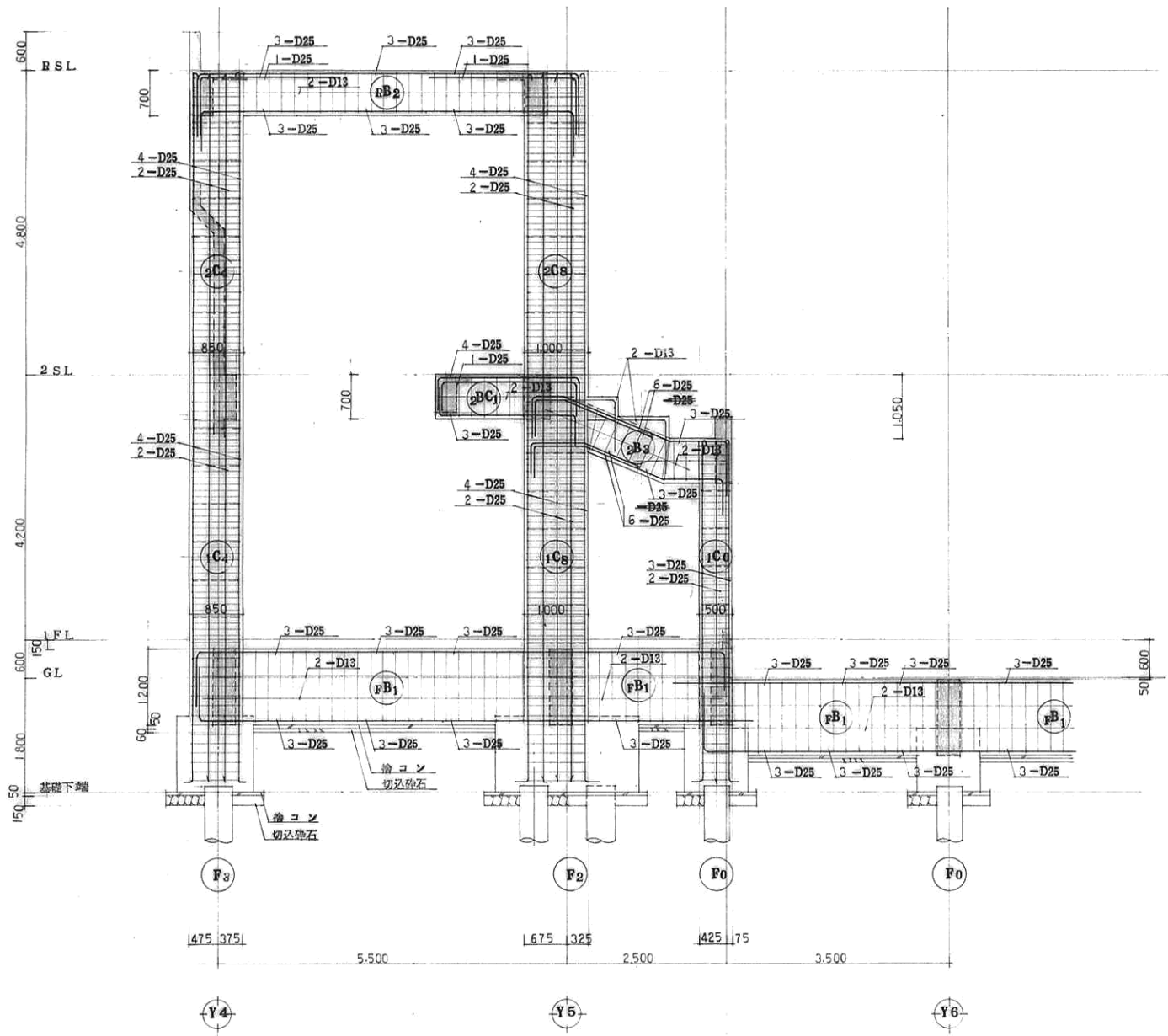
(Yn) 通り ラーメン図 1/50

特記以外 スターラップ D13-200@
 フープ D13-100@
 ダイケフープ D10-600@
 仕口部フープ D13-150@



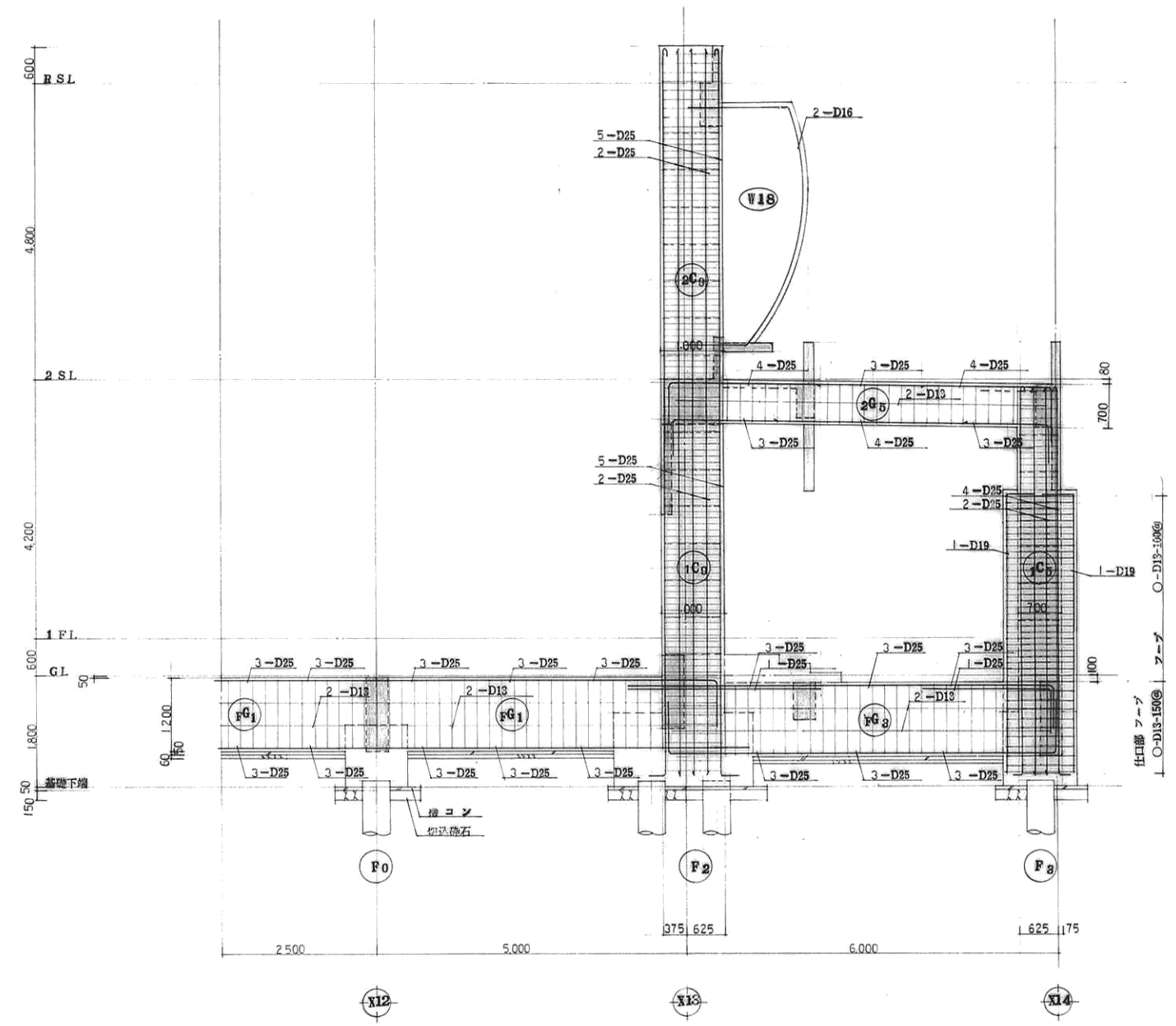
(X5) 通り ラーメン図 1/50

特記以外 スターラップ D13-200@
 フープ D13-100@
 ダイケフープ D10-600@
 仕口部フープ D13-150@



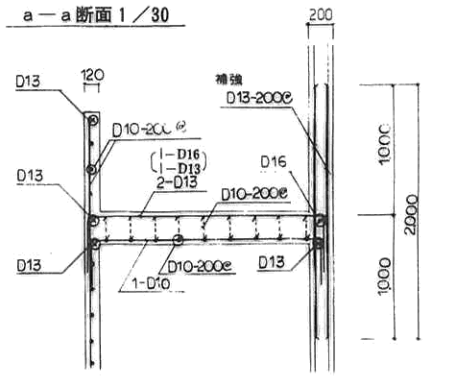
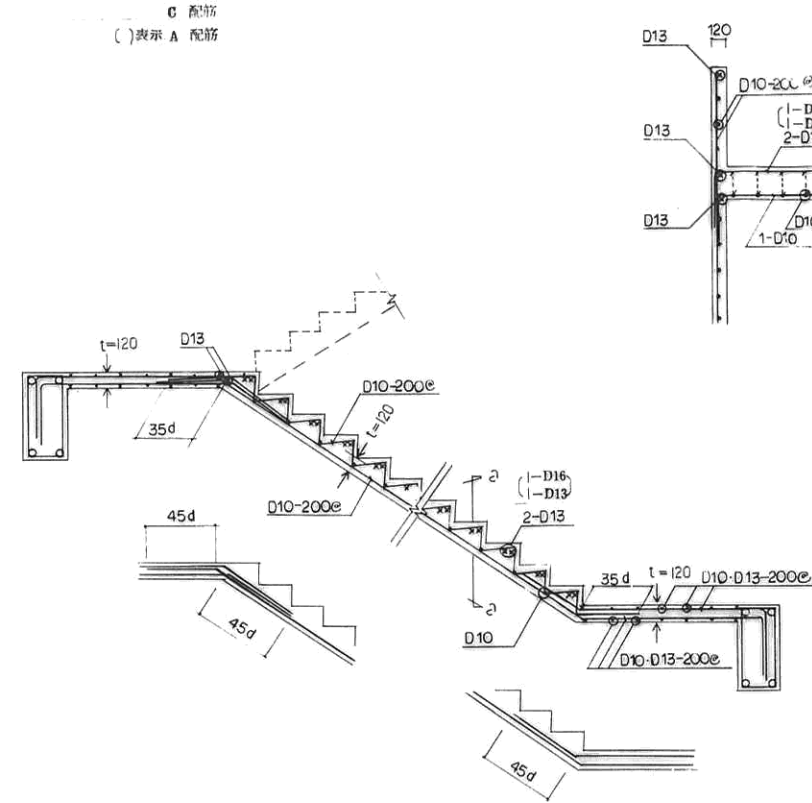
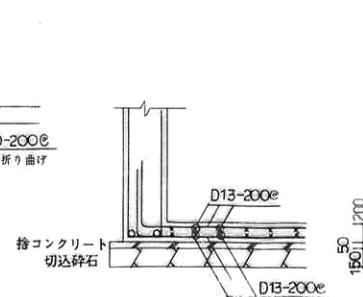
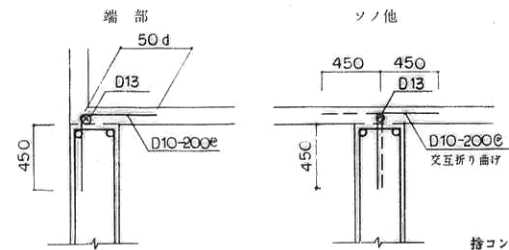
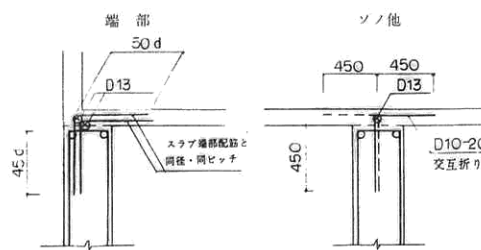
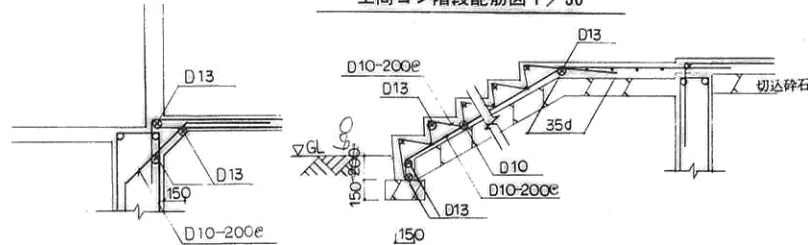
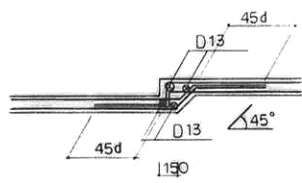
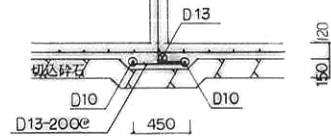
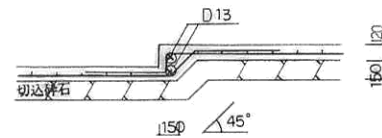
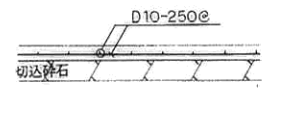
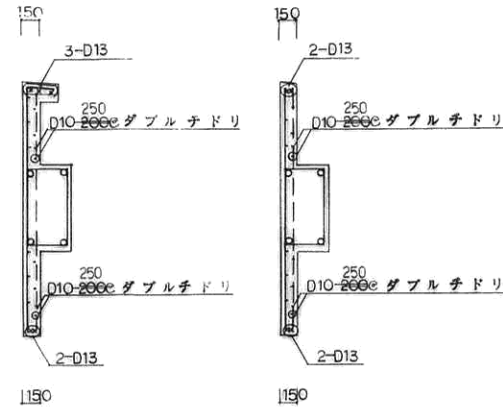
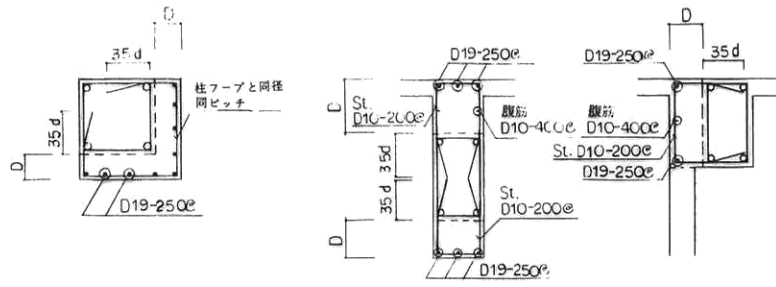
⑧7 通り ラーメン図 1/50

特記以外 スターラップ D13-200@
 フープ D13-100@
 ダイヤフープ D10-600@
 仕口部フープ D13-150@



⑧8 通り ラーメン図 1/50

特記以外 スターラップ D13-200@
 フープ D13-100@
 ダイヤフープ D10-600@
 仕口部フープ D13-150@

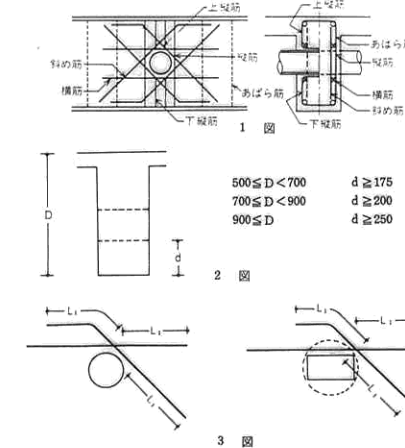


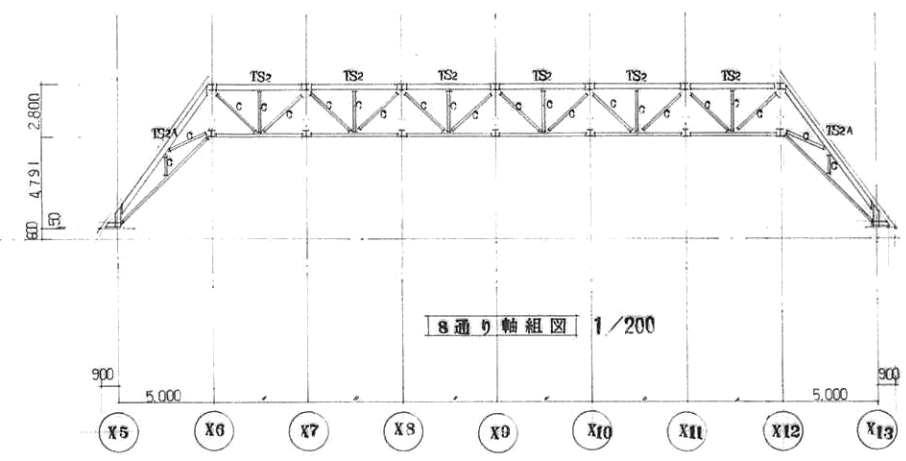
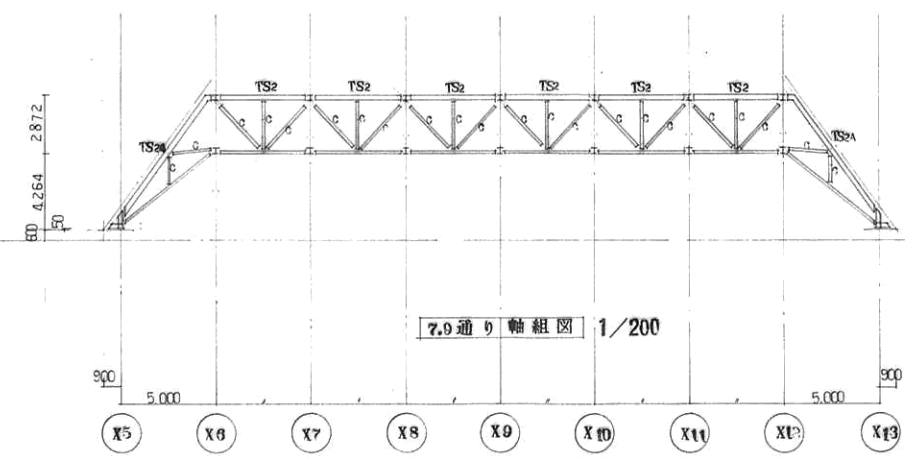
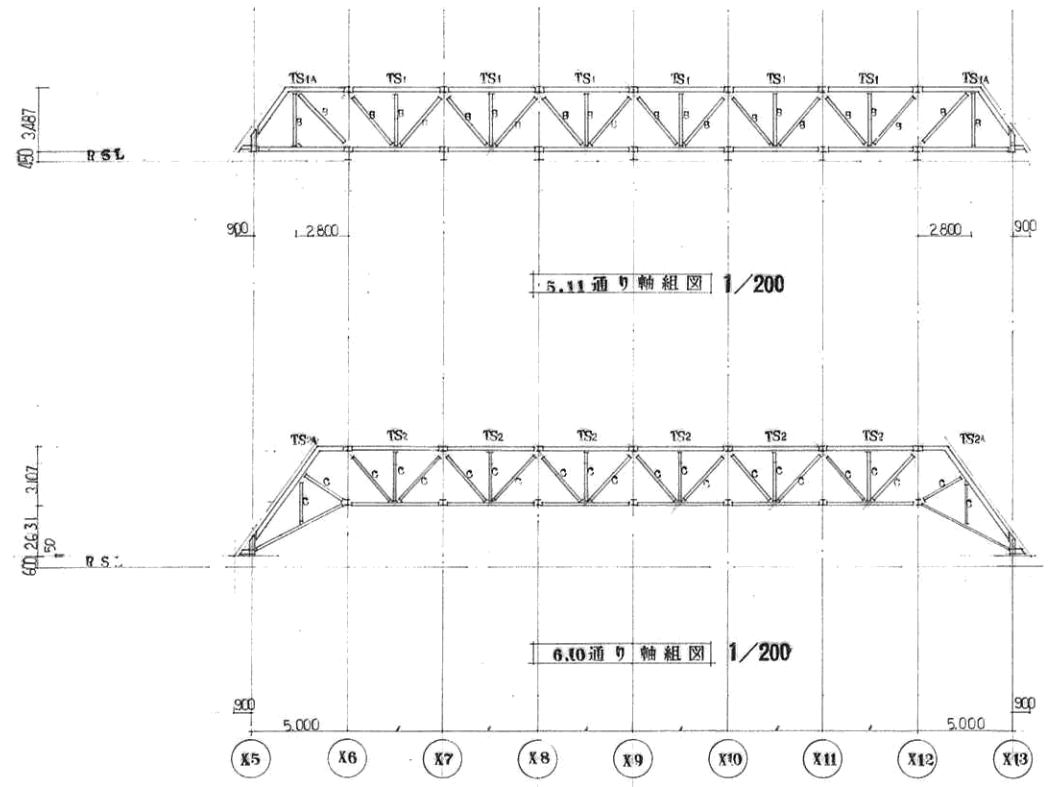
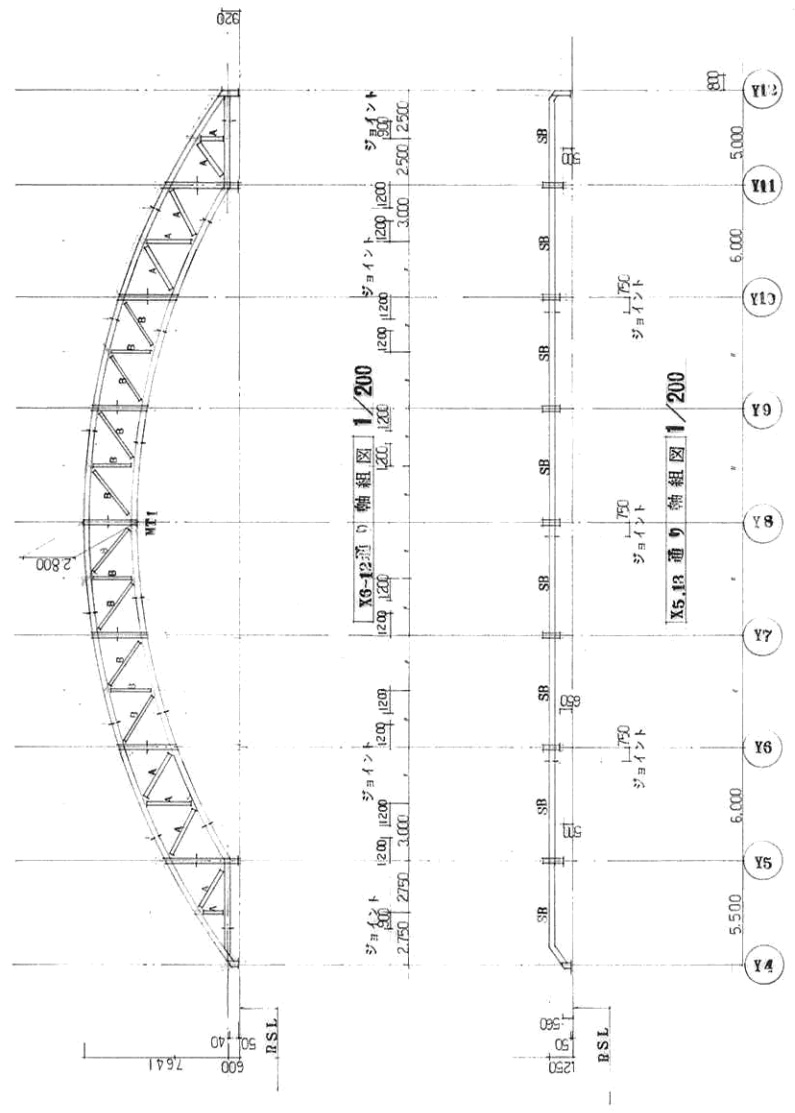
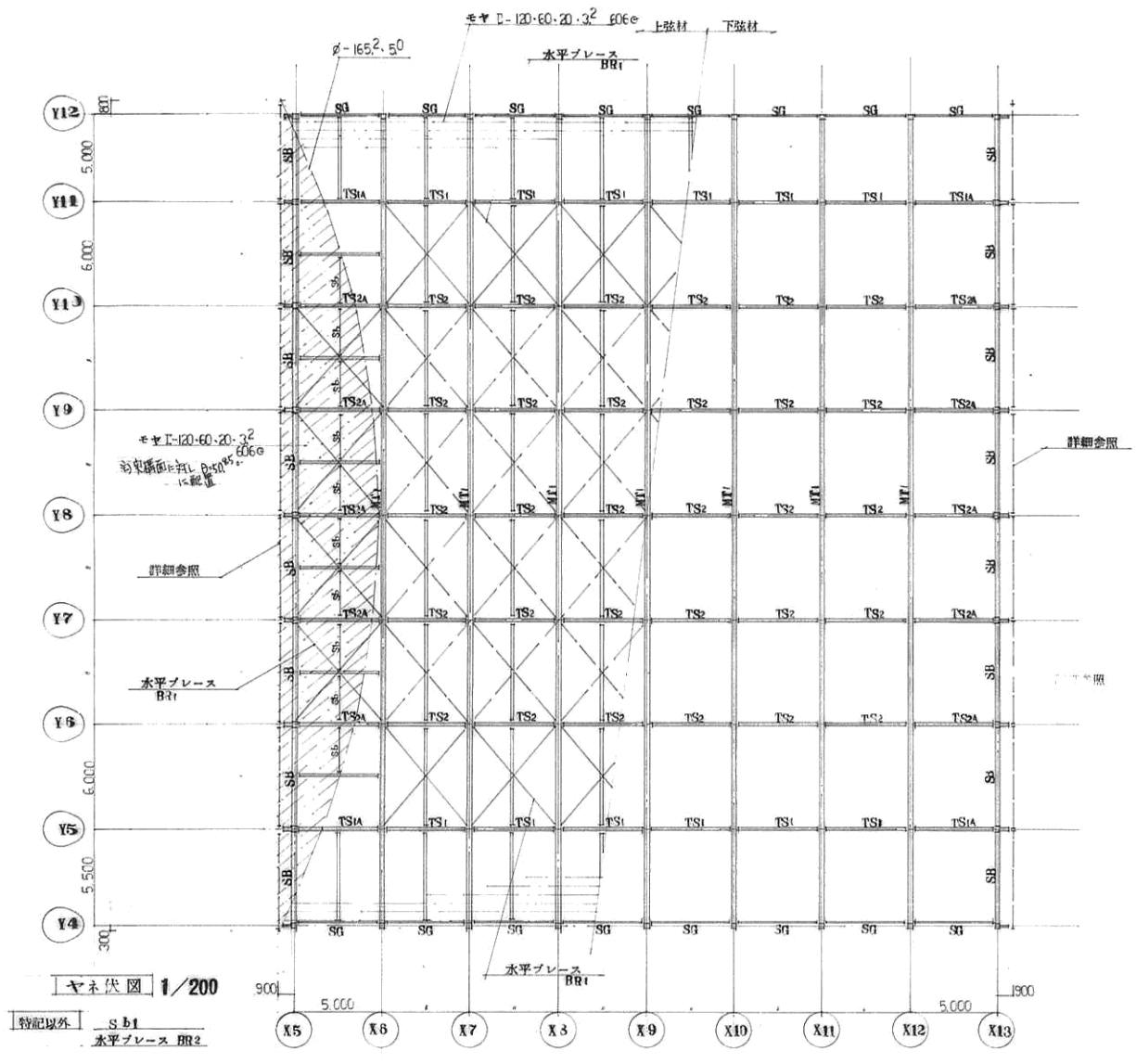
はり貫通孔の補強

- はり貫通孔の補強は特記による。特記がなければ下記による。
- 1) はり貫通孔補強筋の名称などは1図による。
 - 2) 孔の径は、はりせい以下の寸とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
 - 3) 孔の上・下方向の位置は、2図による。
 - 4) 孔の中心位置の限度は、柱及び直交するはり(小はり)の面から原則として1.2D (Dは、はりせい)以上離す。
 - 5) 孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
 - 6) 縦筋及び上下底筋は、あばら筋の形に配筋する。
 - 7) 補強筋は主筋の内側とする。やむをえない場合は監督員の承諾を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは3図による。
 - 8) 孔の径がはりせいの1/10以下且つ150mm未満のものは、補強を省略することができる。
 - 9) 貫通位置、径を施工図に記入し、監督員の承諾を得る事。

02 配筋種別は、下表による。
(1) H形配筋

配筋種別	斜め筋	H形配筋			配筋図
		縦筋	横筋	上・下底筋	
H1	なし	なし	なし		[Diagram H1]
H2	2-2-D13	2-2-D13			
H3	4-2-D13				[Diagram H3]
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13		
H5	4-2-D16				[Diagram H5]
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H7	4-2-D22				[Diagram H7]





備考

整理番号

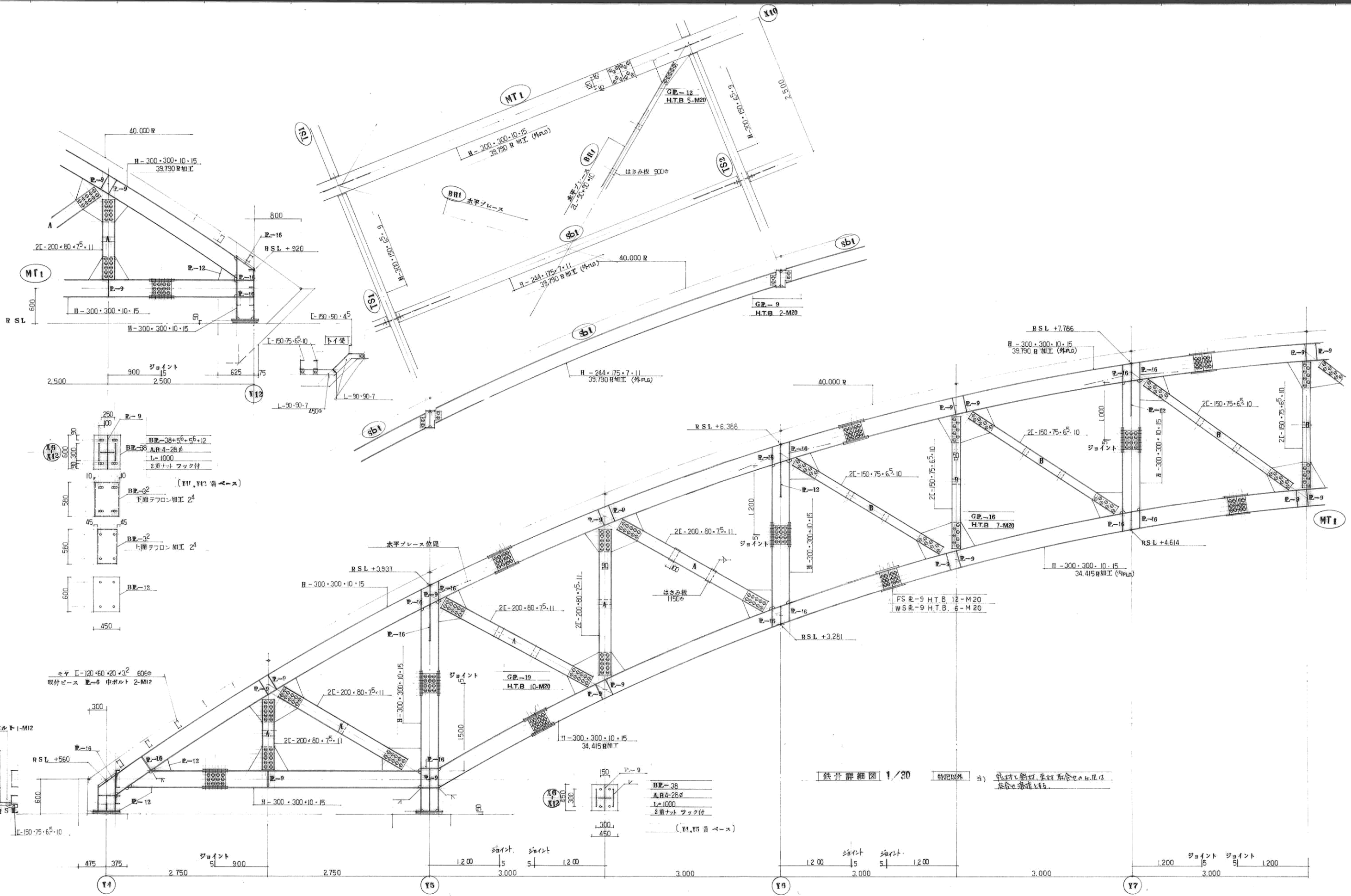
設計年月日	全葉	No.	工事名	工事
89.3	31	122	下田町町民交流センター(仮称)	
図面名称			Scale 1/200	
アリーナヤネ伏図 軸組図				

部材リスト

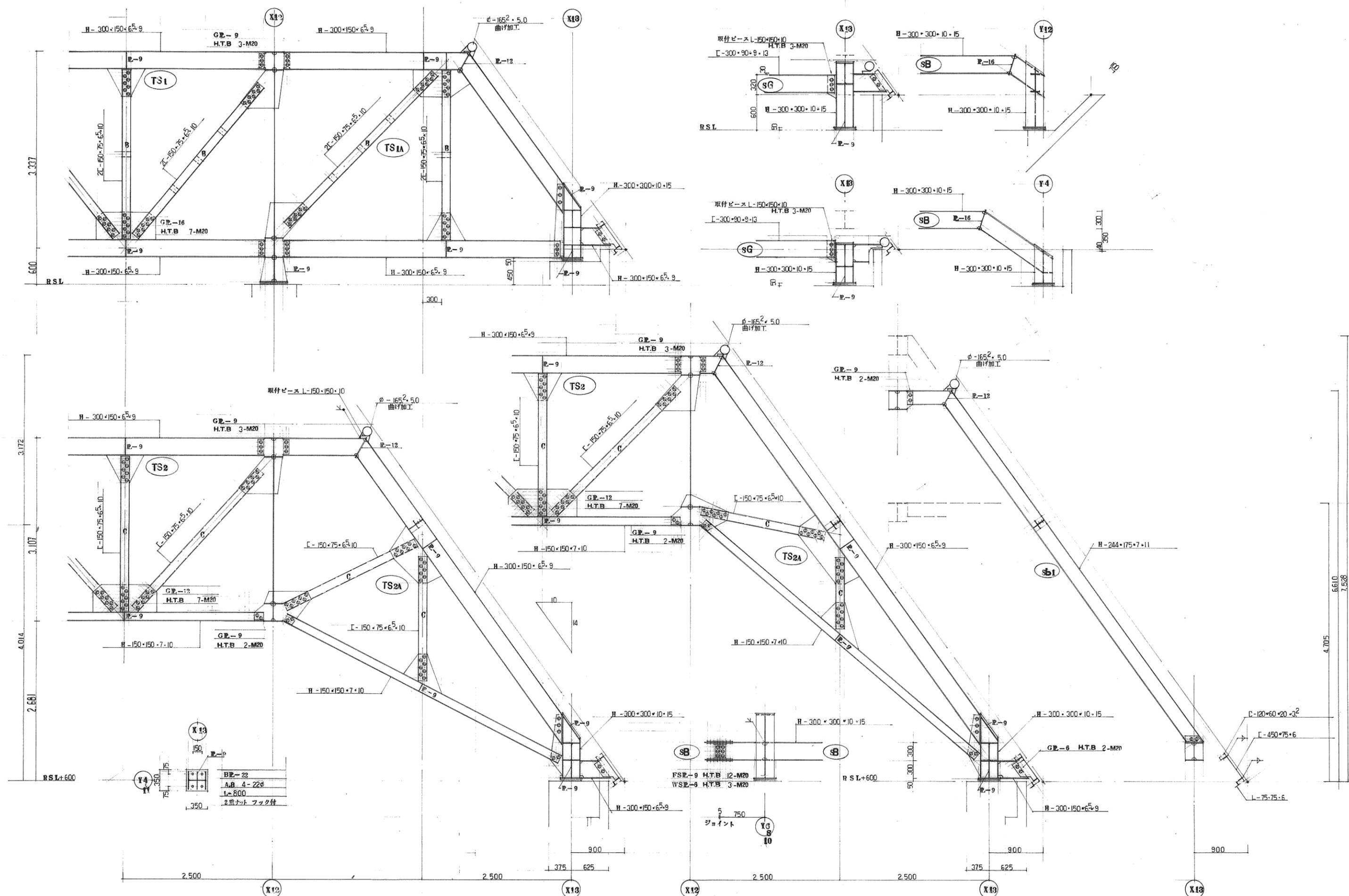
符号	位置	鋼材断面	ジョイント	
MT 1	上弦材	H - 300 × 300 × 10 × 15		
		FSE-9 H.T.B 12-M20 WSE-6 H.T.B 6-M20		
	下弦材	H - 300 × 300 × 10 × 15		
		同上		
	柱材	H - 300 × 300 × 10 × 15		
		同上		
	斜材	A	2L - 200 × 80 × 7 ⁵ × 11	
			G.E.-19 H.T.B 10-M20 はきみ板 E-19	
		B	2L - 150 × 75 × 6 ⁵ × 10	
			G.E.-16 H.T.B 7-M20 はきみ板 E-16	
束材	A	2L - 200 × 80 × 7 ⁵ × 11		
		G.E.-19 H.T.B 10-M20 はきみ板 E-19		
	B	2L - 150 × 75 × 6 ⁵ × 10		
		G.E.-16 H.T.B 7-M20 はきみ板 E-16		
TS1 TS1A	上弦材	H - 300 × 150 × 6 ⁵ × 9		
		G.E.-9 H.T.B 3-M20		
	下弦材	H - 300 × 150 × 6 ⁵ × 9		
		G.E.-9 H.T.B 3-M20		
斜材	B	2L - 150 × 75 × 6 ⁵ × 10		
		G.E.-16 H.T.B 7-M20 はきみ板 E-16		
TS2 TS2A	上弦材	H - 300 × 150 × 6 ⁵ × 9		
		G.E.-9 H.T.B 3-M20		
	下弦材	H - 150 × 150 × 7 × 10		
		G.E.-9 H.T.B 2-M20		
束材	C	L - 150 × 75 × 6 ⁵ × 10		
		G.E.-12 H.T.B 7-M20		
束材	C	L - 150 × 75 × 6 ⁵ × 10		
		G.E.-12 H.T.B 7-M20		
SG		L - 300 × 90 × 9 × 13		
		G.E.-9 H.T.B 3-M20 取付プレート L-150-150-10		
SB		H - 300 × 300 × 10 × 15		
		FSE-9 H.T.B 12-M20 WSE-6 H.T.B 3-M20		

符号	位置	鋼材断面	ジョイント
ST 1	上弦材	H - 800 × 300 × 14 × 28	
		FSE-16 H.T.B 24-M22 WSE-9 H.T.B 6-M22	
	T.B	H - 200 × 200 × 8 × 12	
		FG.E.-12 H.T.B 6-M20	
SG0		L - 300 × 90 × 9 × 13	
		G.E.-9 H.T.B 3-M20	
SB0		H - 300 × 300 × 10 × 15	
		FSE-9 H.T.B 12-M20 WSE-6 H.T.B 3-M20	

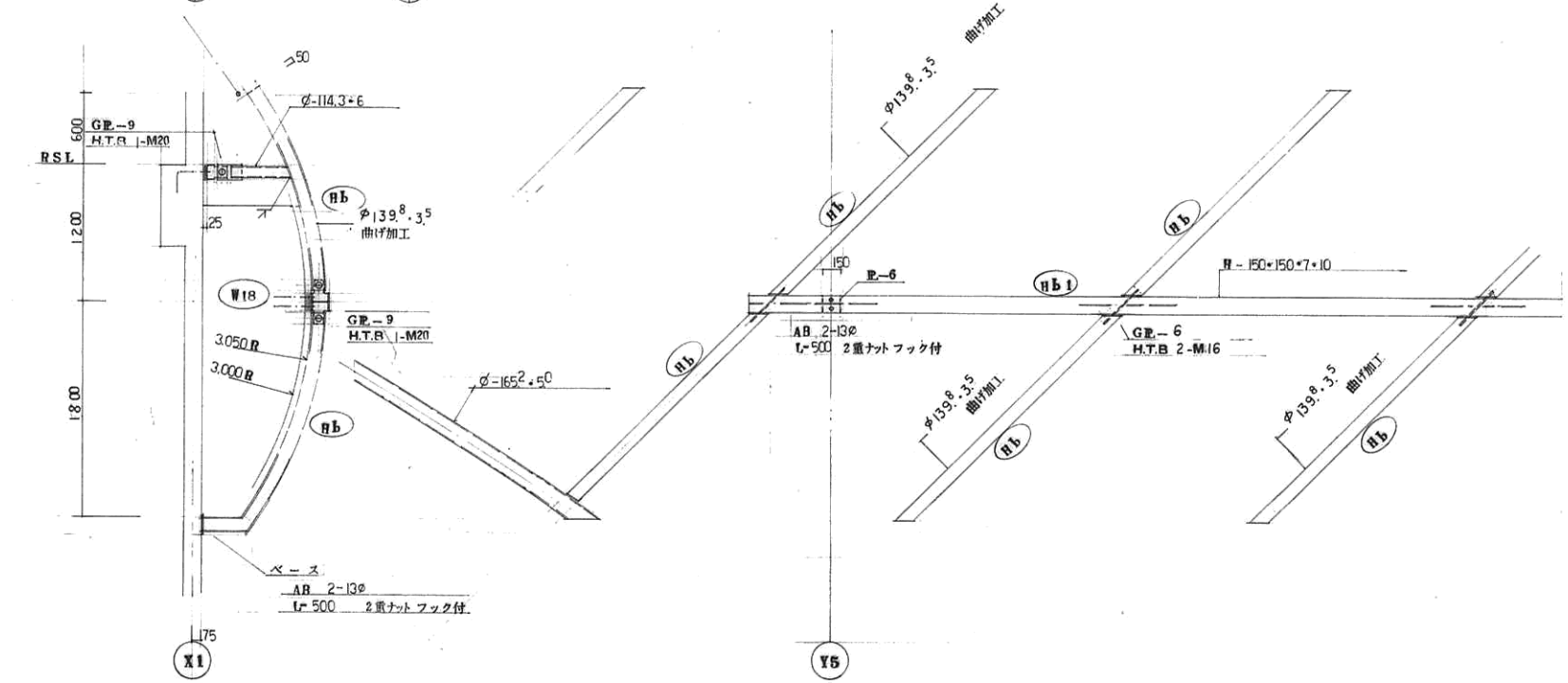
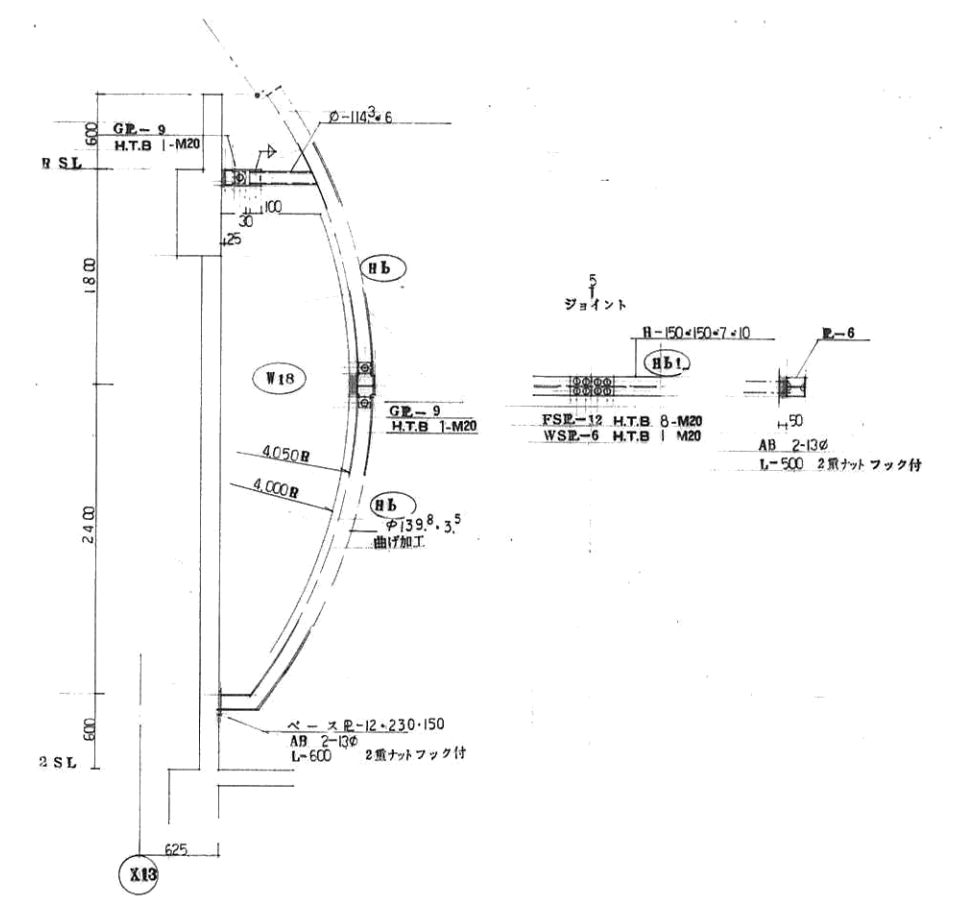
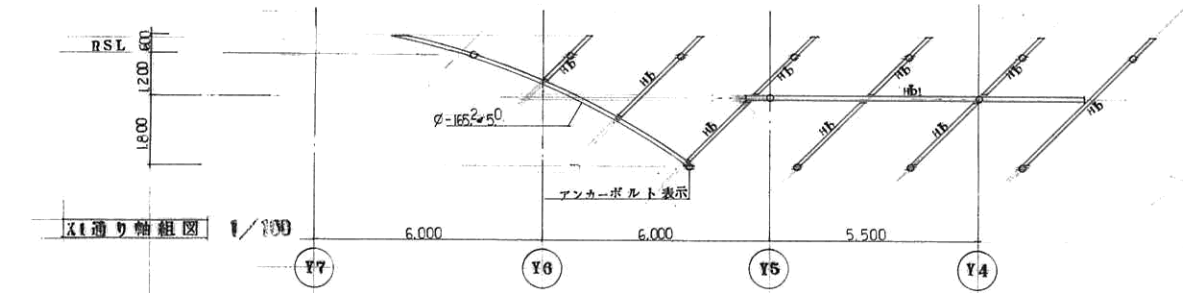
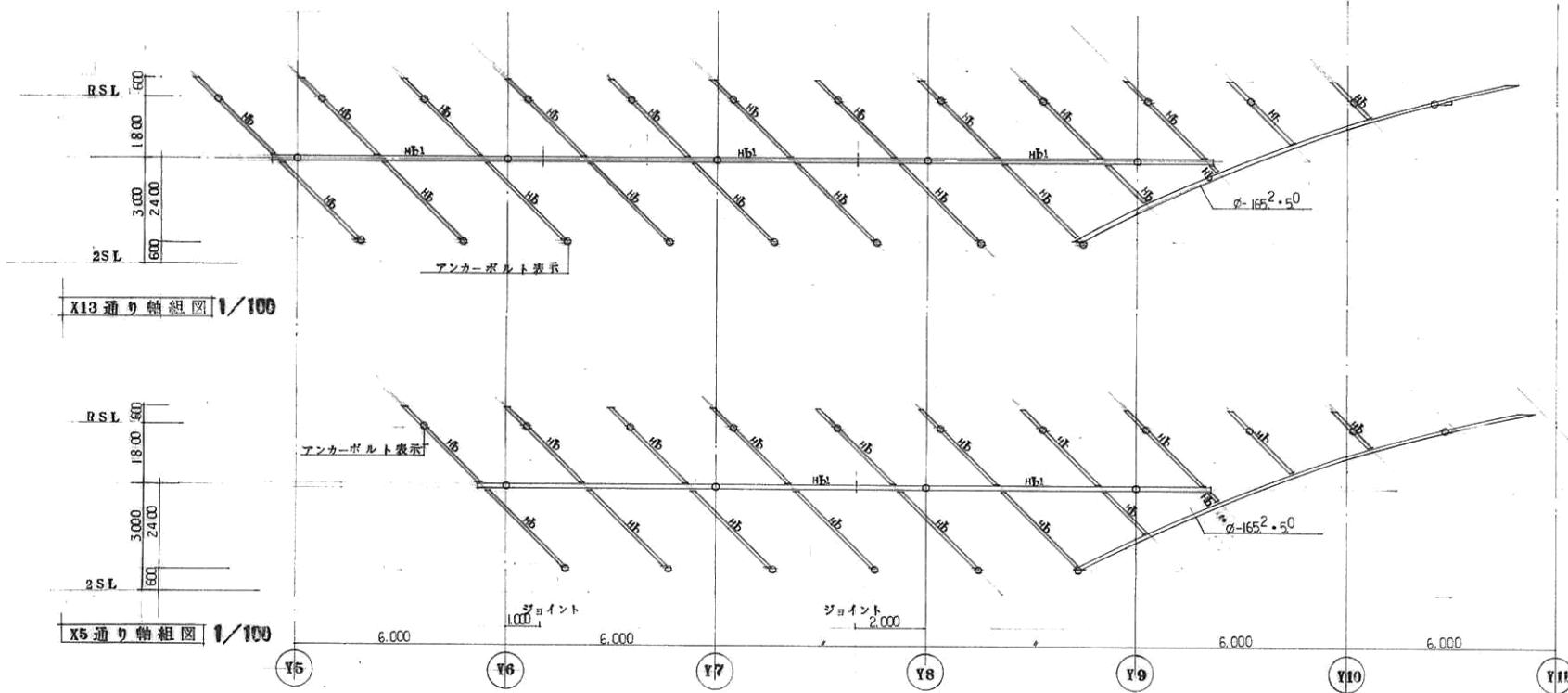
符号	鋼材断面	G.E.	H.T.B 本数
s b 1	H - 244 × 175 × 7 × 11	G.E.-9	2-M20
	H - 150 × 150 × 7 × 10	G.E.-9	2-M20
水平ブレース	2L - 90 × 90 × 10	G.E.-12	5-M20
		はきみ板 E-12	
	BR1	L - 90 × 90 × 10	G.E.-12
キヤ	L - 120 × 60 × 20 × 3 ² 6060	E-6	中ボルト 2-M12



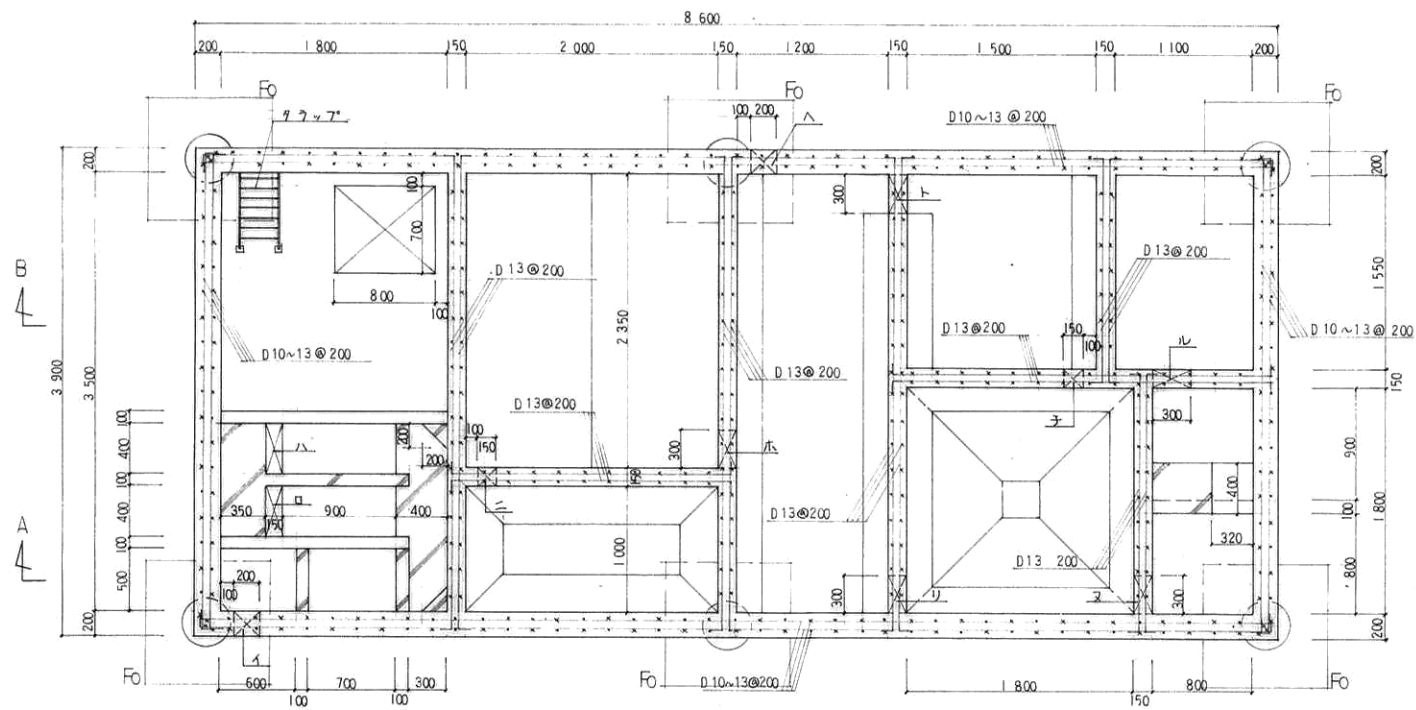
鉄骨詳細図 1/30 特記以外 鋼材は鋼材規格に準じて採用する。



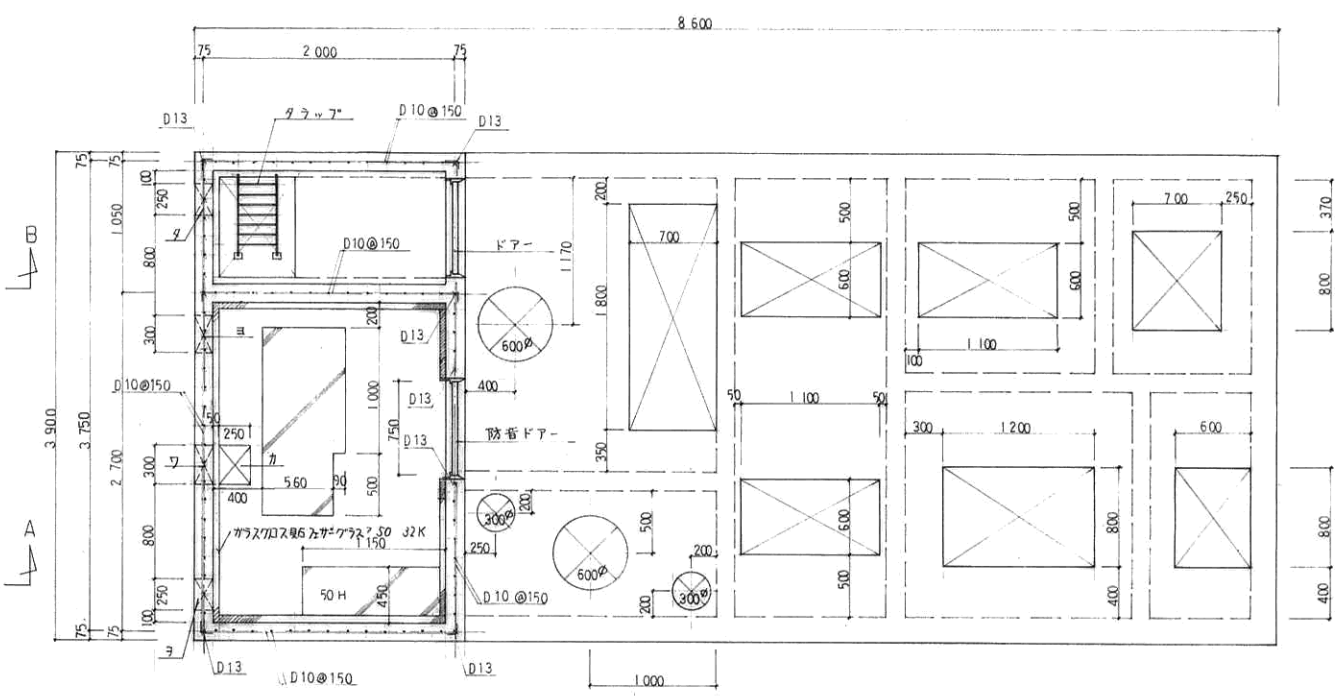
鉄骨詳細図 1/30 特記以外



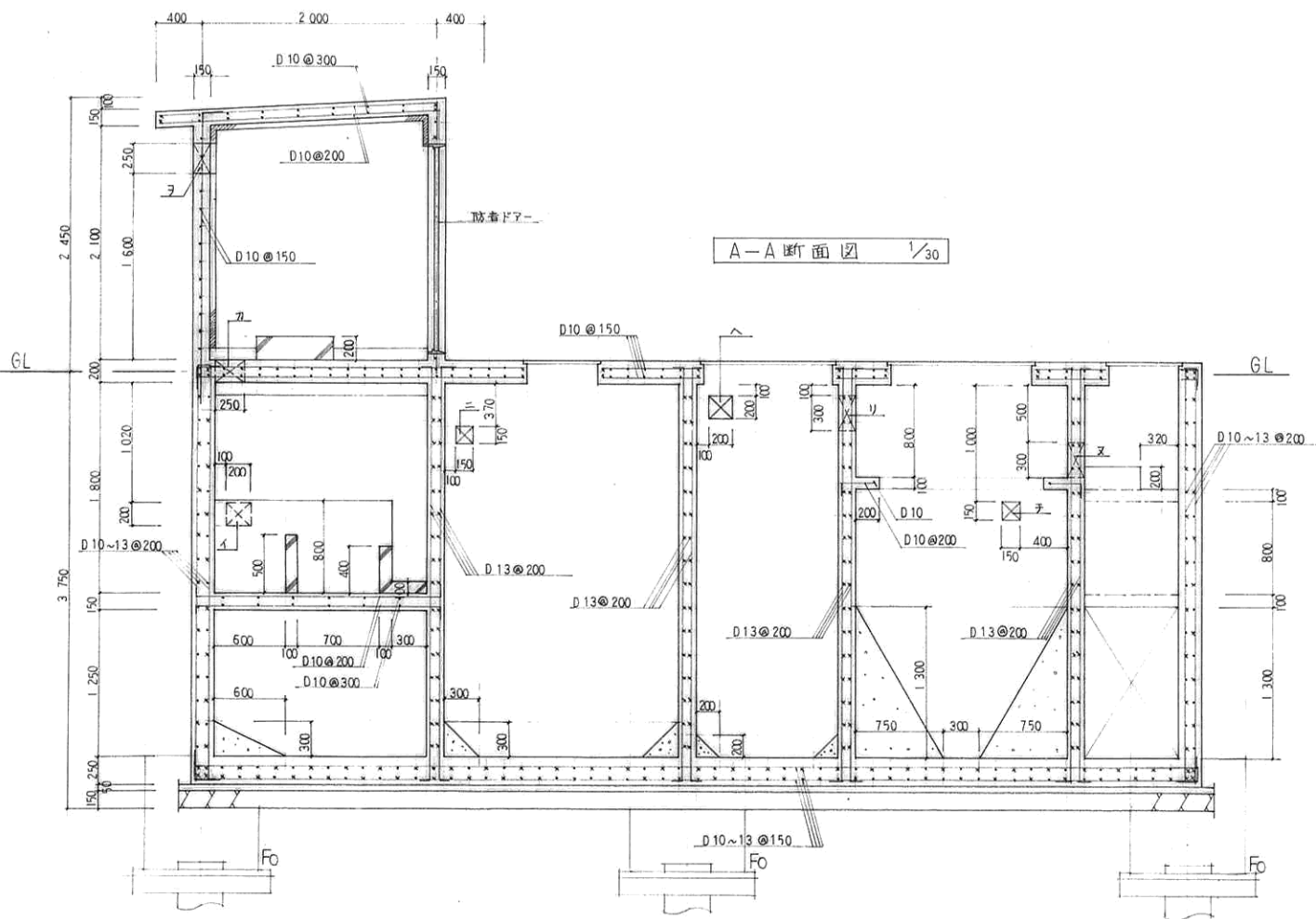
平面図 1/30



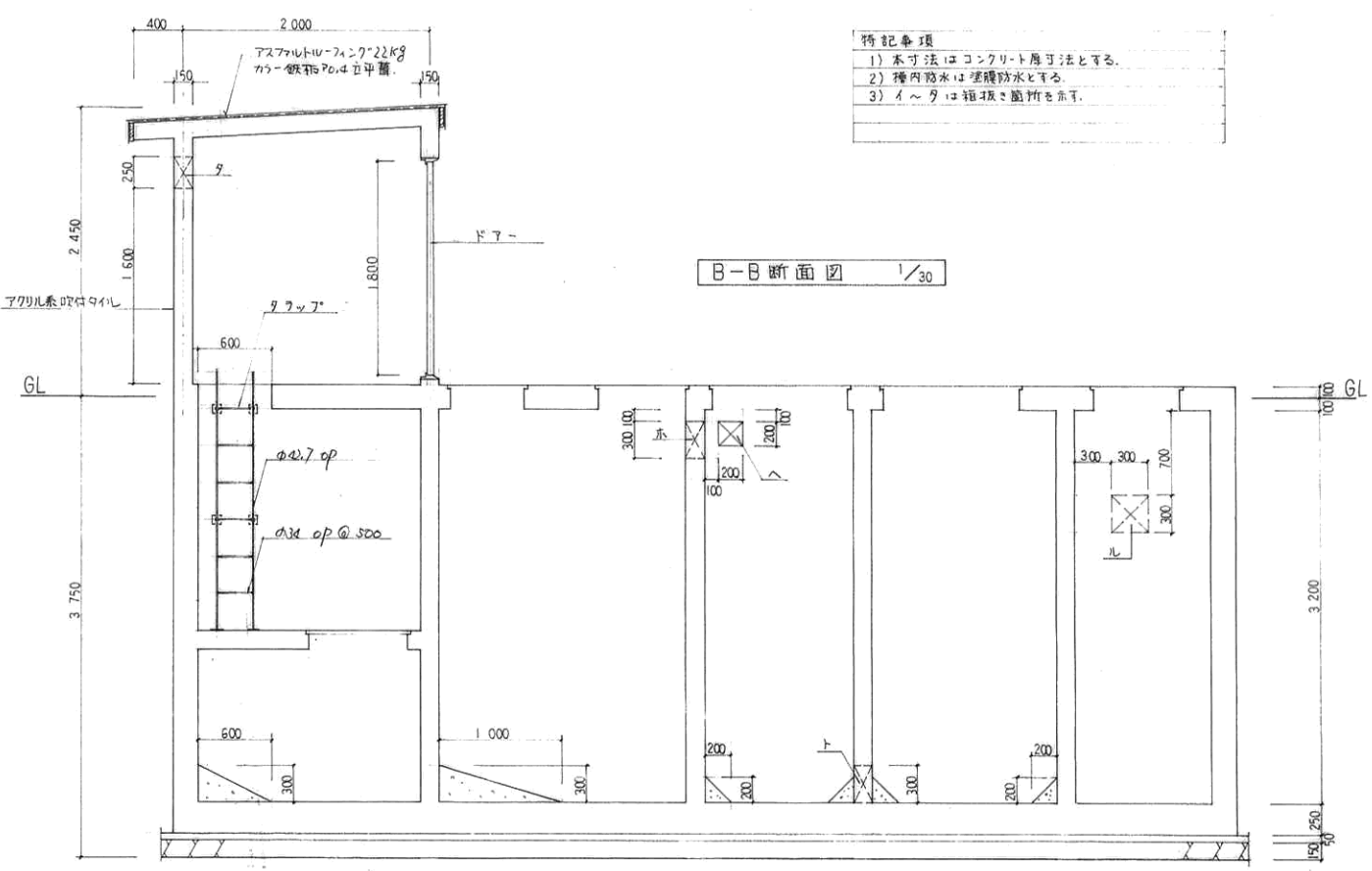
スラブ平面図 1/30



A-A断面図 1/30



B-B断面図 1/30



- 特記事項
- 1) 寸法はコンクリート厚可法とする。
 - 2) 種内筋は強靱防水とする。
 - 3) A~Fは箱根の箇所を示す。